

寺院・僧侶に関する生活者の意識調査 (平成28年12月実施)

一般社団法人お寺の未来



「寺院・僧侶に関する生活者の意識調査」の概要	P3
調査結果	P7
調査結果の所見	P39

「寺院・僧侶に関する生活者の意識調査」概要



【本調査の目的】

- 生活者の寺院・僧侶に対する意識・期待を把握し、健全な寺院運営および僧侶の研鑽につながりうる示唆を得る

(※日本仏教界のさらなる発展への一助となることを願い、伝統仏教寺院に広く共有・活用されるよう、調査結果は無償公開します)

【調査対象】

- 全国の20～79歳の男女10,000名

※上記対象者が一定の質問に回答後、「年間に1回以上寺院にお参りする人」を2,000名抽出し、特定の質問を追加で回答

【調査時期】

平成28年12月

【調査手法】

インターネット調査(無作為抽出)

【分析の考え方】

寺院・僧侶のあり方は地域ごとの土着性が強いいため、「全体数値→地域別数値」を基本的な分析の流れとし、各設問ごとに特長的な要素があれば個別に取り上げる

調査質問



全員対象
(10,000名)
※No.26まで

寺院への
年間参詣
1回以上
(2,000名)

大分類	中分類	質問文(小分類)	
属性	性別	1 あなたの性別をお聞かせください	
	年齢	2 あなたの年齢をお聞かせください	
	居住地	3 あなたの居住地を教えてください	
	職業	4 あなたの職業をお聞かせください	
	未既婚	5 あなたは結婚していますか？	
	子どもの有無	6 あなたには子どもがいますか？	
儀礼・ 死生観	檀家	7 あなたは特定のお寺の檀家ですか？	
	菩提寺の認識	8 お墓参り、法事、お葬式などをお願いする、決まったお寺はありますか？	
	仏壇との関わり	9 仏壇に手を合わせる機会はありますか？(自宅、実家、親戚の家など、場所を問いません)	
	お墓参り	10	一年間のお墓参りの回数を教えてください(お寺以外のお墓も含みます)
		11	あなたが お墓参りに行く機会について、あてはまるものを全てお答えください
	法事	12	あなたは亡き人を弔う法事は、どこまで行なうことが必要だと思いますか？
	葬儀・埋葬(家族)	13	あなたは家族など自分に近い人の葬儀において、何を重視しますか？重要なものを3つ選んでください
		14	あなたは家族など自分に近い人の葬儀には参列者をどこまで望みますか？
		15	あなたは家族など自分に近い人の葬儀には、僧侶がお経を読むことは必要ですか？
		16	あなたは家族など自分に近い人の葬儀で、住職や僧侶が心のこもった丁寧な読経や法話、対応してくれた時、どの程度の金額をお布施としてお渡しますか？
		17	あなたは家族など自分に近い人のお骨を、どのように埋葬したいですか？
		18	あなたは家族など自分に近い人は、死後にどこに行く(どこにいる)と思いますか？最大2つまでお答えください
	葬儀・埋葬(自分)	19	あなたは自分の葬儀において、何を重視しますか？重要なものを3つ選んでください
		20	あなたは自分の葬儀には参列者をどこまで望みますか？
		21	あなたは自分の葬儀において、僧侶がお経を読むことは必要ですか？
		22	あなたは死後の自分のお骨は、どのように埋葬してほしいですか？
		23	あなたは、自分が死後にどこに行く(どこにいる)と思いますか？最大2つまでお答えください
	生前契約の意向	24	あなたは、自分の死後のことを考えて、生前に様々な物事を決めておきたいと思いますか？(例:葬儀、お墓、遺言、遺産分割、遺品整理など)
葬儀(ペット)	25	あなたは犬・猫をはじめとしたペットは、人間同様に丁寧な葬儀などで弔うべきだと思いますか？	
参詣目的	お寺への参詣頻度	26	一年間に、お寺を訪れる回数を教えてください(訪問の目的は問いません)
	お参りの目的	27	お寺を訪れる際の主な目的を教えてください(※複数回答可)
	お参りの目的	28	行ってみたいと思うお寺の催しものを教えてください(※複数回答可)
	認知経路	29	お寺に関する情報を調べる時に、どのような方法で情報収集しますか？(※複数回答可)
受容	僧侶との接触頻度	30	一年間にお坊さんと会う回数を教えてください(挨拶程度も含みます)
	受容の希望	31	お寺で住職やお坊さんに悩みや話を聞いてほしいと思いますか？
	受容の中身	32	お寺で住職やお坊さんにどのような悩みや話を聞いてほしいと思いますか？(※複数回答可)
	生前契約の相談相手	33	あなたは、自分の死後のことを考えて、生前に様々な物事を決めるにあたり、お寺や僧侶は頼りになる相談相手だと思いますか？(例:葬儀、お墓、遺言、遺産分割、遺品整理など)
	お布施(相談)	34	お寺で住職やお坊さんに悩みや話を丁寧に聞いてもらった時、どの程度の金額をお布施としてお渡しますか？
期待	お寺への期待	35	これからの世の中において、お寺やお坊さんに期待していますか？
	お寺への期待(定性)	36	お寺やお坊さんに特にどのような点を期待されていますか？

回答者の属性 1/2



【性別・年齢】

		回答数	%
全体		10000	100.0
1	男性／20-29歳	796	8.0
2	男性／30-39歳	870	8.7
3	男性／40-49歳	848	8.5
4	男性／50-59歳	829	8.3
5	男性／60-69歳	853	8.5
6	男性／70-79歳	965	9.7
7	女性／20-29歳	854	8.5
8	女性／30-39歳	827	8.3
9	女性／40-49歳	757	7.6
10	女性／50-59歳	692	6.9
11	女性／60-69歳	806	8.1
12	女性／70-79歳	903	9.0

【未既婚】

		回答数	%
全体		10000	100.0
1	既婚	5999	60.0
2	未婚	3031	30.3
3	離別／死別	970	9.7

【子どもの有無】

		回答数	%
全体		10000	100.0
1	いる	5581	55.8
2	いない	4419	44.2

【業界】

		回答数	%
全体		10000	100.0
1	エネルギー・素材・産業機械	263	2.6
2	食品	351	3.5
3	飲料・嗜好品	86	0.9
4	薬品・医療用品	150	1.5
5	化粧品・トイレタリー・サニタリー	71	0.7
6	ファッション・アクセサリ	100	1.0
7	精密機械・事務用品	172	1.7
8	家電・AV機器	196	2.0
9	自動車・輸送機器	331	3.3
10	家庭用品	18	0.2
11	趣味・スポーツ用品	28	0.3
12	不動産・住宅設備	340	3.4
13	情報・通信	463	4.6
14	流通・小売業	726	7.3
15	金融・保険	454	4.5
16	交通・レジャー	230	2.3
17	外食・各種サービス	498	5.0
18	官公庁・団体	541	5.4
19	教育・医療サービス	1067	10.7
20	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・広告等マスコミ関係	0	0.0
21	市場調査	0	0.0
22	宗教	0	0.0
23	その他	2742	27.4
24	働いていない(もしくは、家族で働いている人は一人もいない)	2649	26.5

【職業】

		回答数	%
全体		10000	100.0
1	会社員・公務員	3301	33.0
2	派遣社員・契約社員	502	5.0
3	パート・アルバイト	1268	12.7
4	学生	294	2.9
5	専業主婦・主夫	2043	20.4
6	無職	2031	20.3
7	その他	561	5.6

【地域】

地域	都道府県	対象者数	
		全体	抽出後
北海道	北海道	442	81
東北	青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県	553	128
北関東	茨城県、栃木県、群馬県	458	82
首都圏	東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県	3,881	775
甲信越	山梨県、長野県、新潟県	328	77
東海	静岡県、岐阜県、愛知県、三重県	1,038	208
北陸	富山県、石川県、福井県	152	23
近畿	大阪府、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県、兵庫県	1,788	374
山陰	島根県、鳥取県	69	14
山陽	岡山県、広島県、兵庫県	433	74
四国	香川県、徳島県、愛媛県、高知県	221	42
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	637	122
		10,000	2,000

※寺院・僧侶のあり方は土着性が強いが、都道府県単位はサンプル数に偏りがあるため、全体的な傾向把握という本調査の趣旨に鑑み、文化・風習が近接していると考えられる「地域」を分析の括りとした

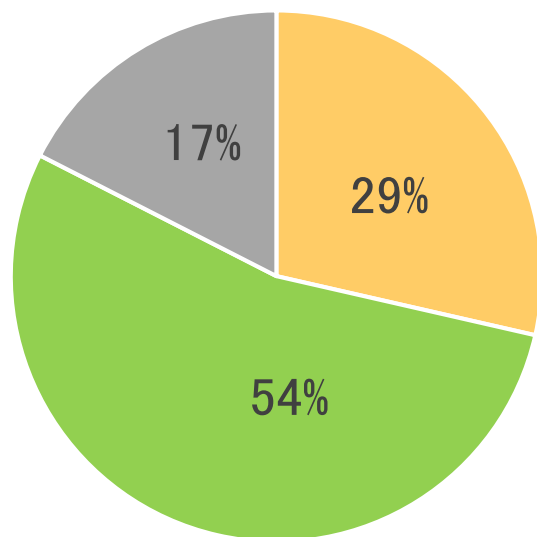
「寺院・僧侶に関する生活者の意識調査」

調査結果 (N=10,000)

「檀家」という意識

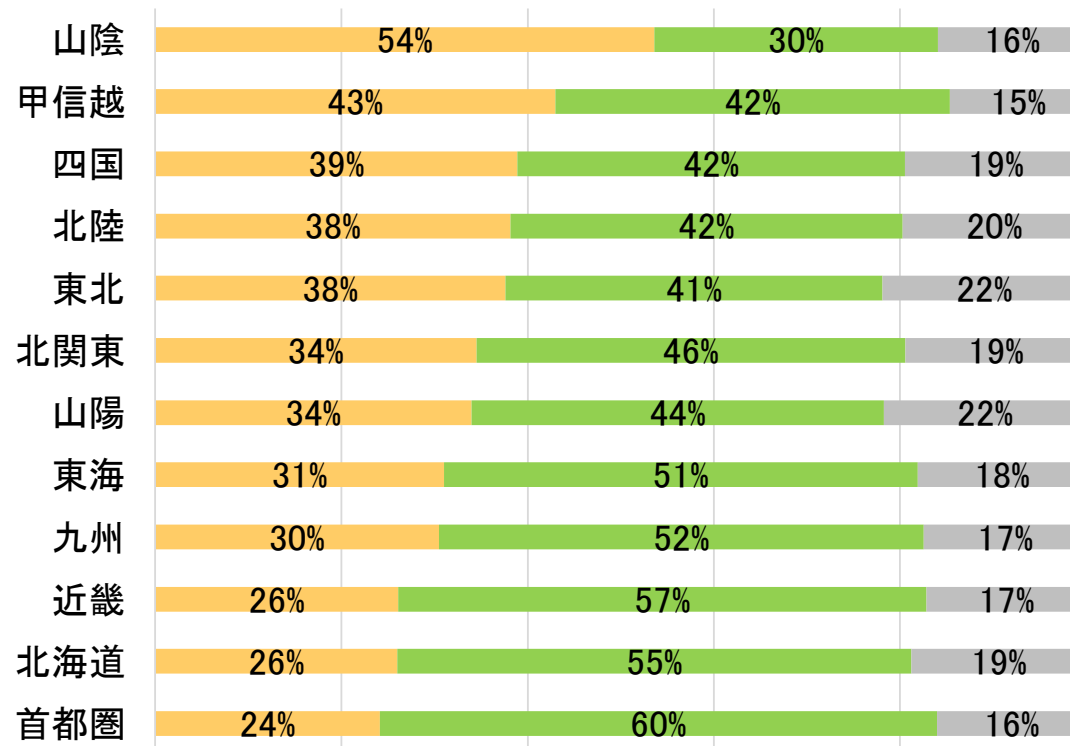
問:あなたは、特定のお寺の檀家ですか？

檀家という意識 (N=10,000)



■ 檀家である ■ 檀家でない ■ 分からない

地域別



■ 檀家である ■ 檀家でない ■ 分からない

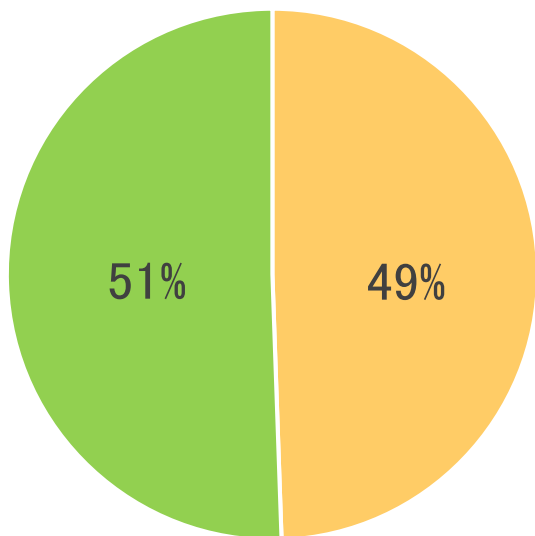
ポイント

- 檀家という意識は、全体で29%。地域別では山陰、甲信越、四国の順に高く、首都圏、北海道、近畿の順に低い。大都市がある地域ほど、檀家という所属意識が低くなる傾向
- 檀家への意識は男性のほうが高く、かつ年齢が上がるほど高くなり、「檀家」という意識でのお寺との付き合いは家長的な色彩がまだ残っている傾向（※紙幅の関係上、グラフ未掲載）

仏事を依頼するお寺の有無

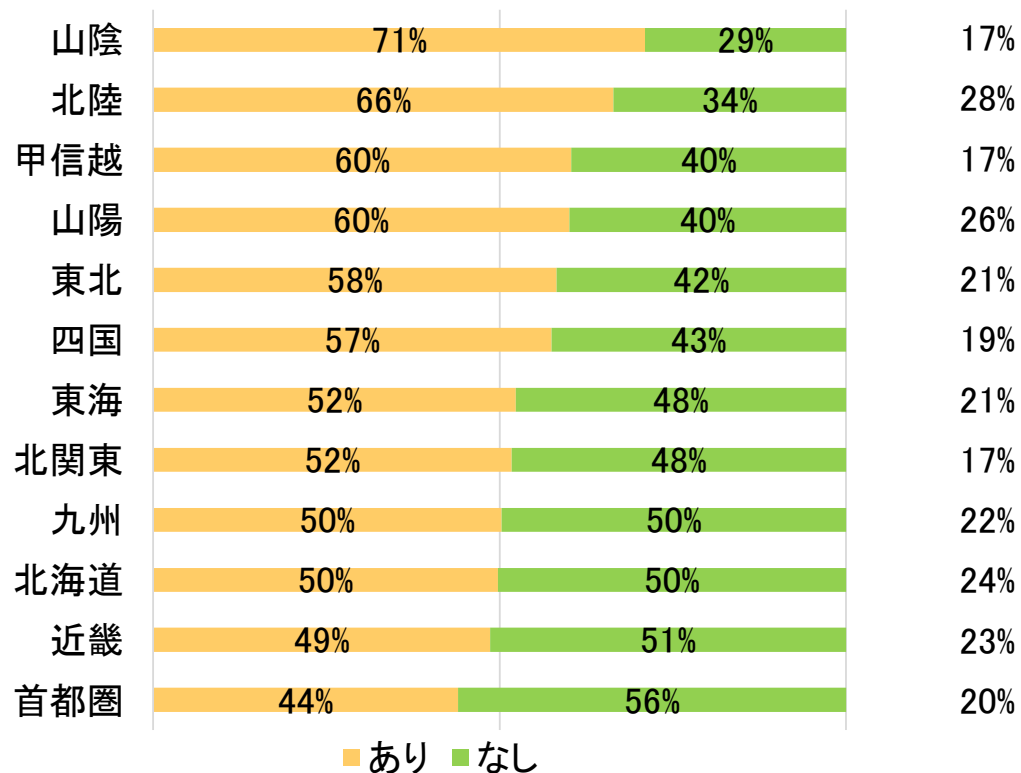
問：法事、お葬式、お墓参りの際の読経などをお願いする、決まったお寺はありますか？

仏事依頼するお寺の有無 (N=10,000)



■あり ■なし

地域別



■あり ■なし

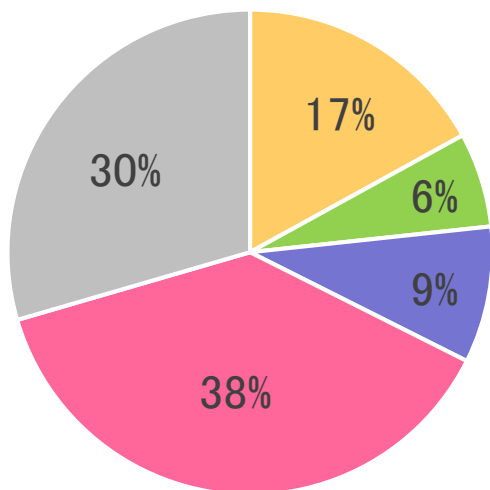
ポイント

- 仏事を依頼するお寺がある人は全体の49%とほぼ半数。地域では山陰、北陸、甲信越の順に高く、首都圏、近畿、北海道の順に低い
- 「檀家意識」と「依頼するお寺がある」の差は各地域でおおむね20%前後。お寺とのつながりはあるが、「檀家」という意識がない人は一定数存在すると考えられる(→お寺側は檀家と思っているが、受け手側は檀家とっておらず所属意識はない)
- 「仏事を依頼するお寺がある」と、「子どもがいる」ことは連動している傾向が見られた (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

仏壇に手を合わせる機会

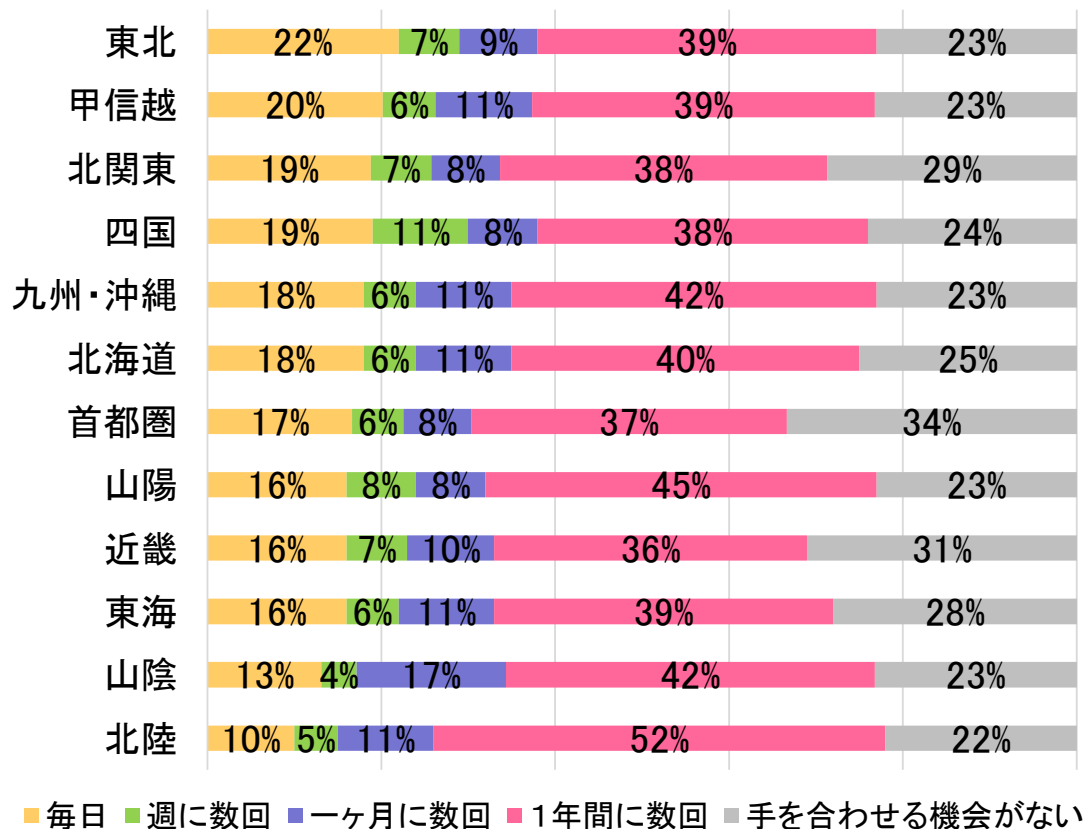
問:あなたは、仏壇に手を合わせる機会がありますか？

仏壇に手を合わせる機会 (N=10,000)



- 毎日
- 週に数回
- 一ヶ月に数回
- 1年間に数回
- 手を合わせる機会がない

地域別



- 毎日
- 週に数回
- 一ヶ月に数回
- 1年間に数回
- 手を合わせる機会がない

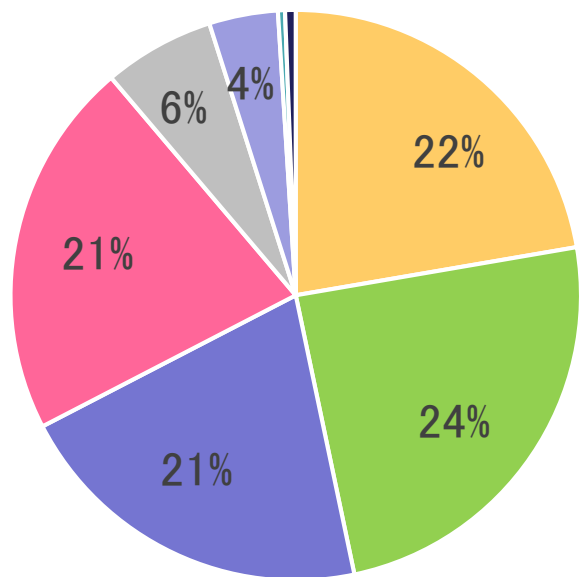
ポイント

- 毎日手を合わせる人は全体で17%。一ヶ月に数回以上手を合わせる人は32%。
- 仏事を依頼するお寺がある人のほうが手を合わせる頻度は高く、毎日手を合わせるのは26%、一ヶ月に数回以上で48%と上昇する (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

お墓参りの回数

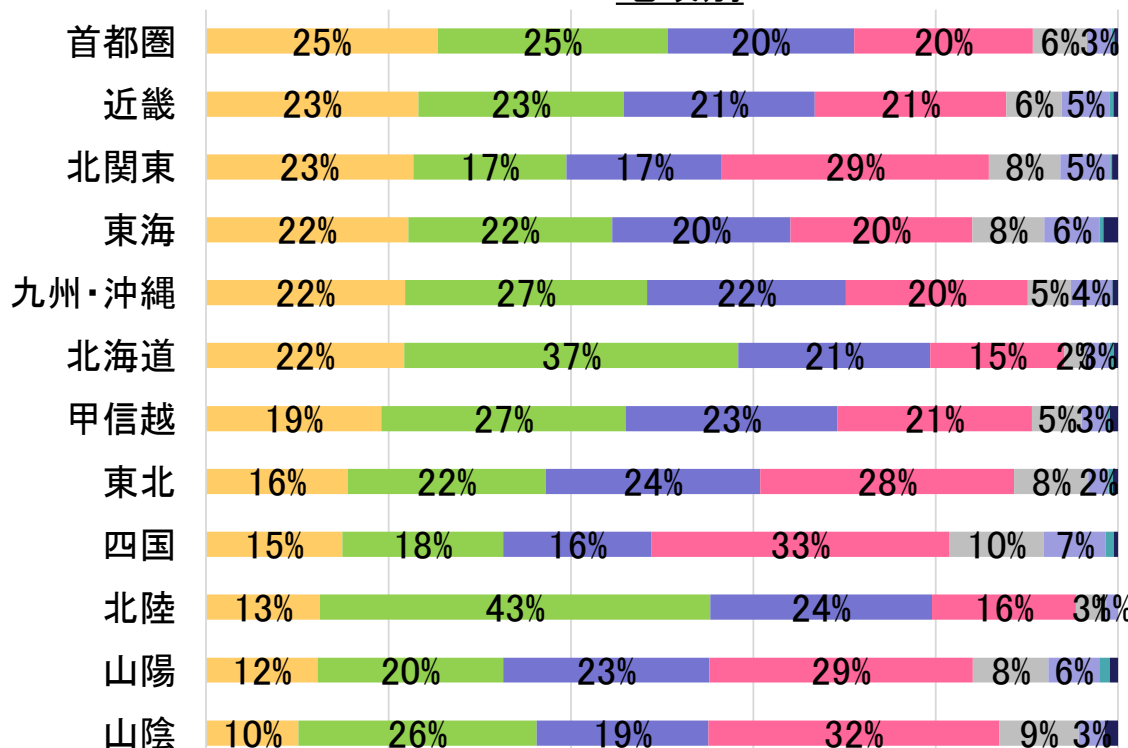
問：あなたが、一年間にお墓参りに行く回数を教えてください。

お墓参りの回数 (N=10,000)



- お墓参りはしない
- 1回
- 2回
- 3-4回
- 5-9回
- 10-19回
- 20-29回
- 30回以上

地域別



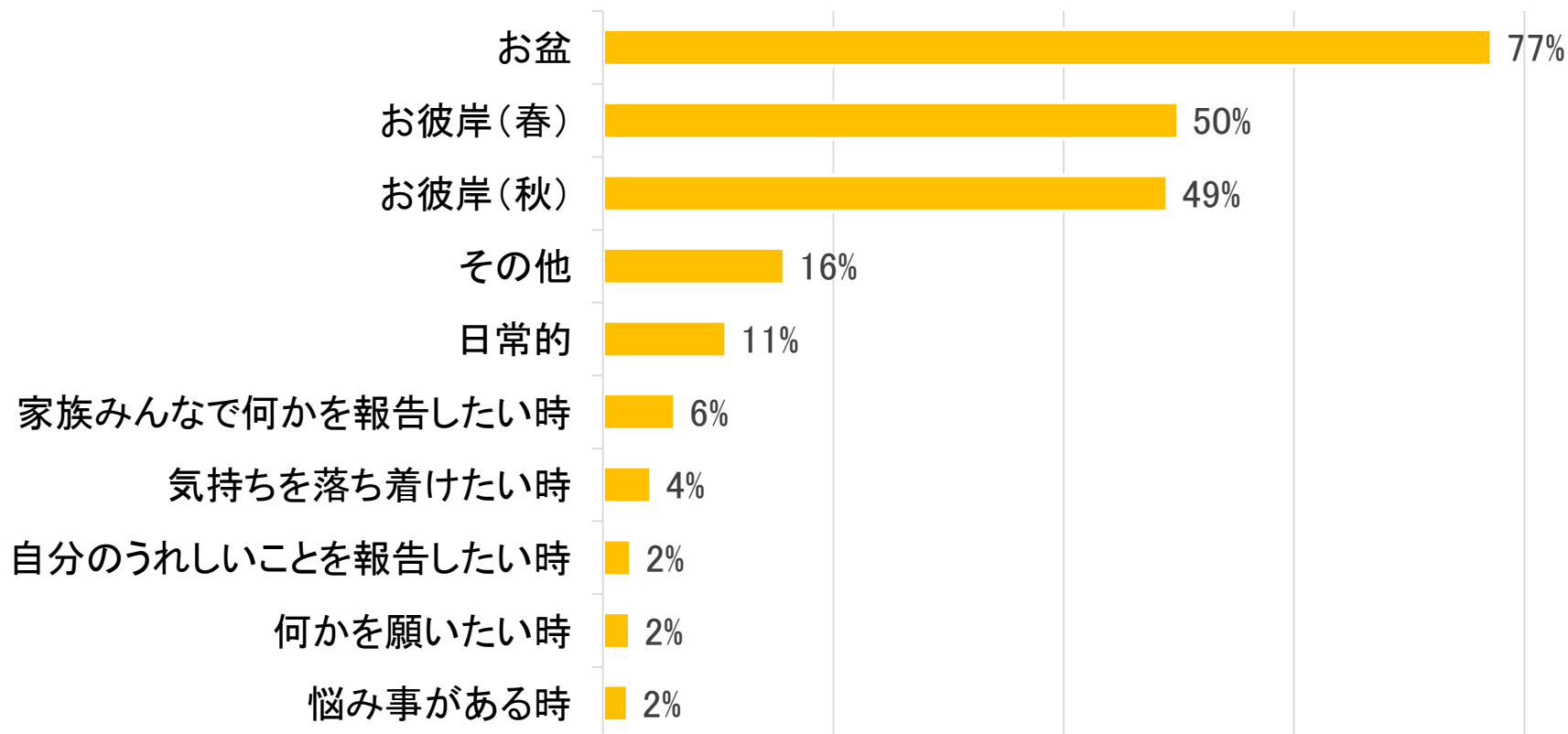
- お墓参りはしない
- 1回
- 2回
- 3-4回
- 5-9回
- 10-19回
- 20-29回
- 30回以上

ポイント

- 約9割弱が年間の墓参りは4回以下。お盆、彼岸(春秋)、年末年始などの節目がその機会になっていると考えられる
- 墓参りが3回以上になると、仏事を依頼するお寺がない人や子どもがいない人は、お寺がある人と子どもがいる人に比べて割合が急減する (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

問:あなたが、お墓参りに行く機会について、あてはまるものを全てお答えください。(複数回答)

お墓参りに行く機会

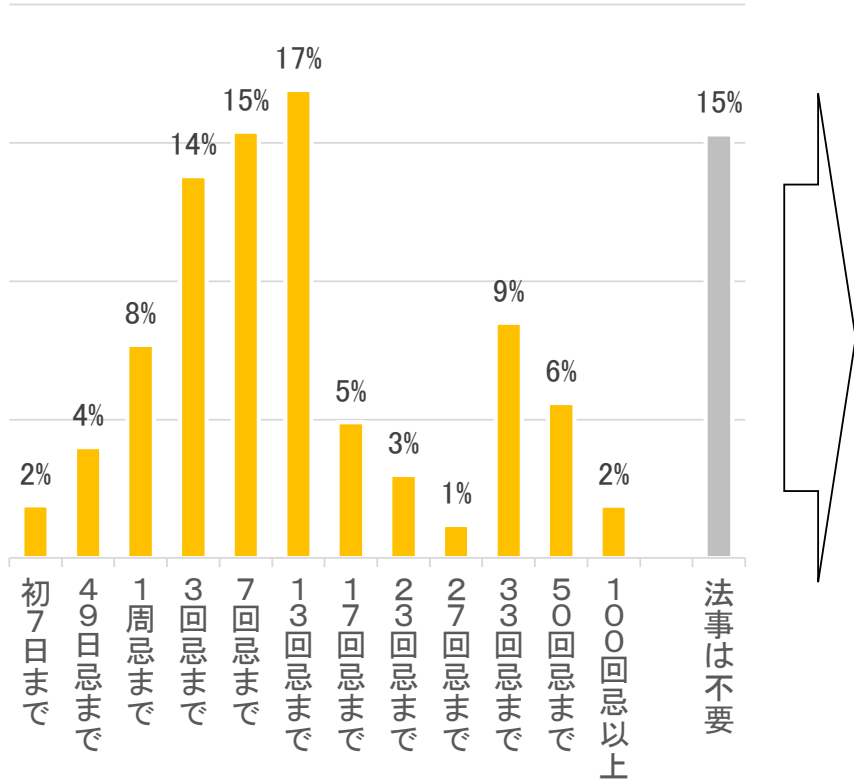


- お盆が約8割、お彼岸が5割と機会としては圧倒的。次に多い「その他」は命日と年末年始が占め、日常的にも約1割が墓参
- 「うれしい報告」「悩みごと」「気持ちを落ち着ける」「何かを願う」は、20-30代において高くなる傾向があり、若年層にとってお墓参りは精神安定剤の効果があるのではないかと推察される（※紙幅の関係上、グラフ未掲載）

法事の回忌数

問:あなたは、亡き人を弔う法事は、どこまで行なうことが必要だと思いますか？

法事の回忌数 (N=10,000)



地域別

地域	初7日まで	49日まで	1周忌まで	3回忌まで	7回忌まで	13回忌まで	17回忌まで	23回忌まで	27回忌まで	33回忌まで	50回忌まで	100回忌以上	法事は不要
北海道	3%	3%	8%	13%	16%	16%	5%	6%	1%	8%	5%	2%	14%
東北	1%	5%	7%	15%	12%	16%	5%	4%	1%	10%	7%	3%	14%
北関東	2%	5%	10%	14%	15%	16%	5%	2%	1%	10%	2%	2%	14%
首都圏	2%	4%	7%	14%	15%	19%	5%	3%	1%	8%	3%	2%	17%
甲信越	1%	4%	9%	15%	16%	17%	2%	3%	2%	11%	2%	1%	16%
東海	3%	4%	9%	14%	18%	15%	5%	3%	1%	5%	8%	2%	14%
北陸	2%	4%	7%	21%	17%	11%	3%	2%	0%	8%	13%	1%	10%
近畿	1%	4%	7%	13%	15%	16%	5%	2%	1%	9%	8%	2%	17%
山陰	7%	1%	9%	14%	20%	22%	2%	1%	0%	6%	4%	0%	13%
山陽	1%	6%	7%	12%	18%	18%	6%	2%	1%	10%	8%	1%	11%
四国	2%	5%	5%	13%	14%	19%	4%	3%	0%	11%	9%	3%	11%
九州・沖縄	3%	3%	9%	12%	14%	14%	5%	3%	1%	10%	10%	2%	14%

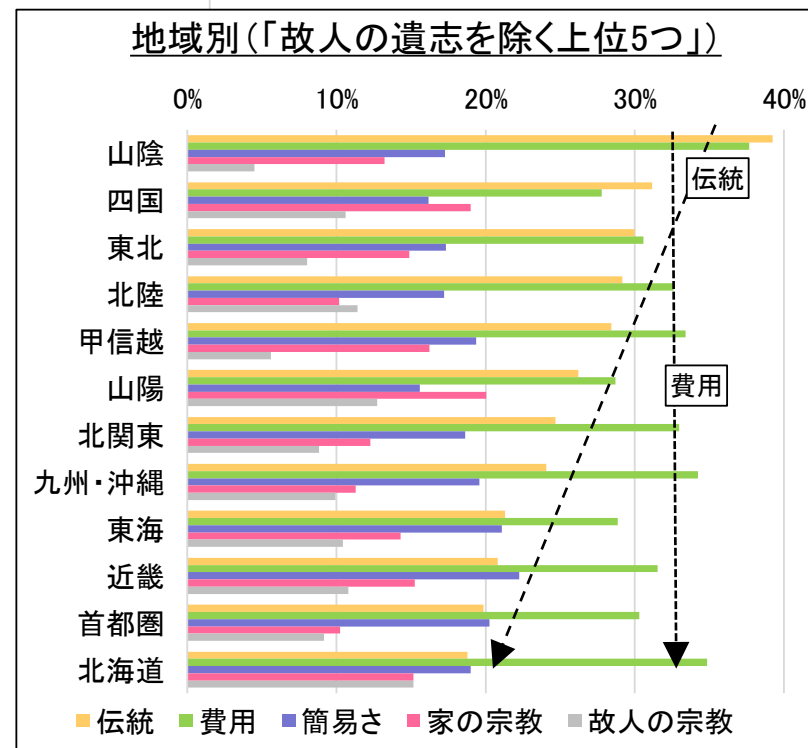
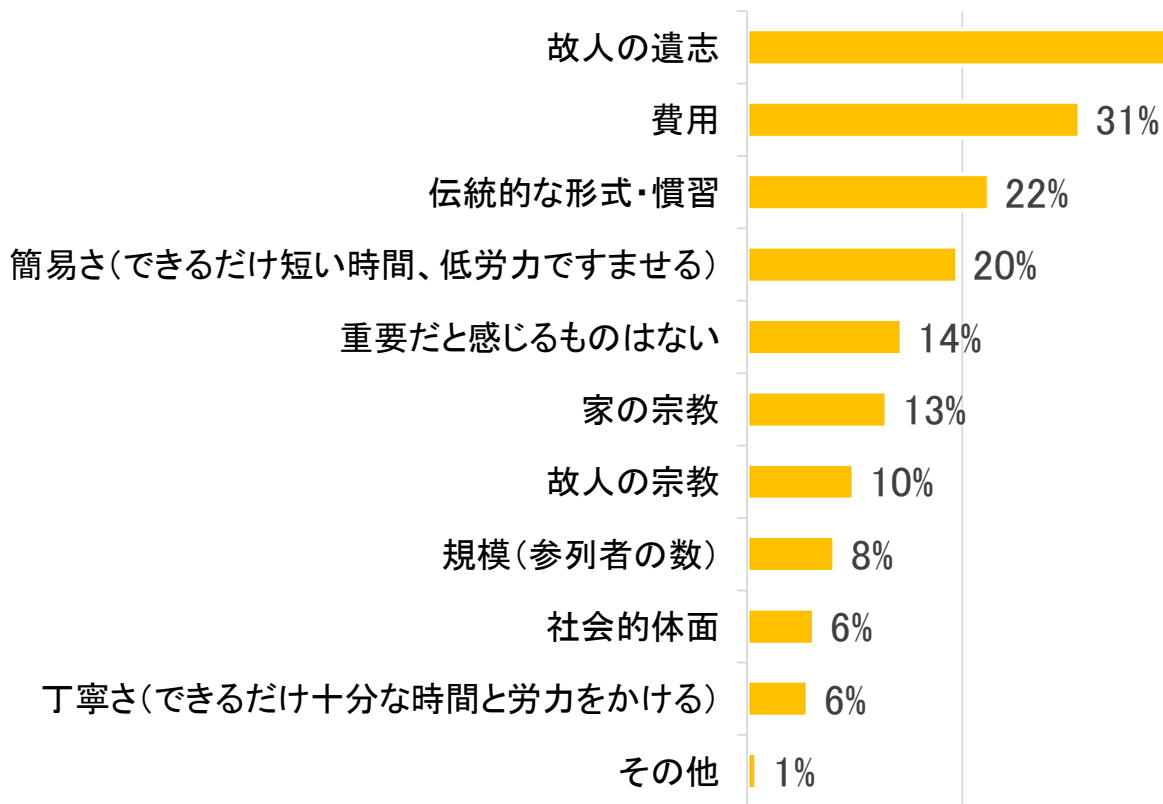
ポイント

- 13回忌までが一つのピークとなり、以降は33回忌に再度のピークがある。法事が不要という層も一定数存在
- 年齢が上の方のほう、お寺がある人のほう、子どもがいる人のほう、配偶者がいる人(いた人)の方が長めの回忌数を必要と感じる (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

葬儀で重視するもの(近親者の葬儀)

問:あなたは、家族など自分に近い人の葬儀において、何を重視しますか？重要なものを3つまで選んでください。(複数回答)

葬儀で重視するもの(近親者の葬儀)



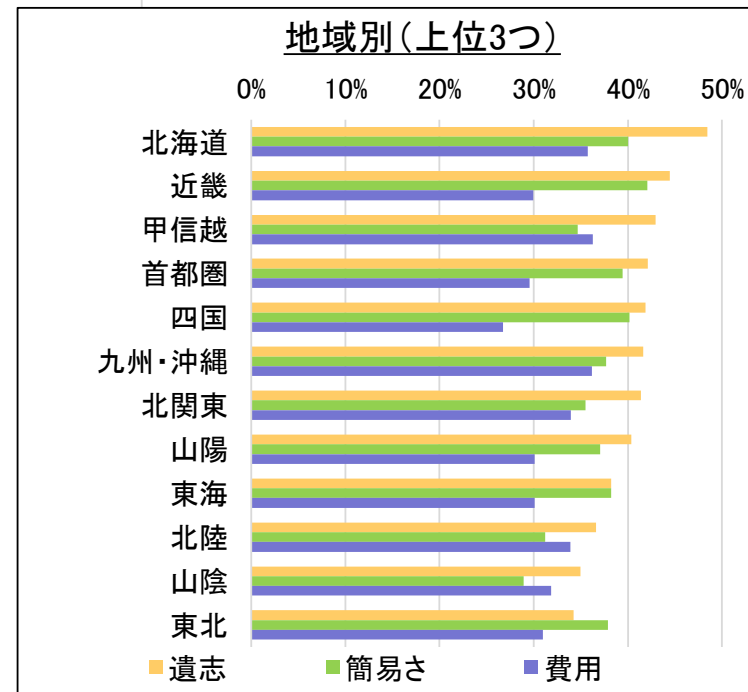
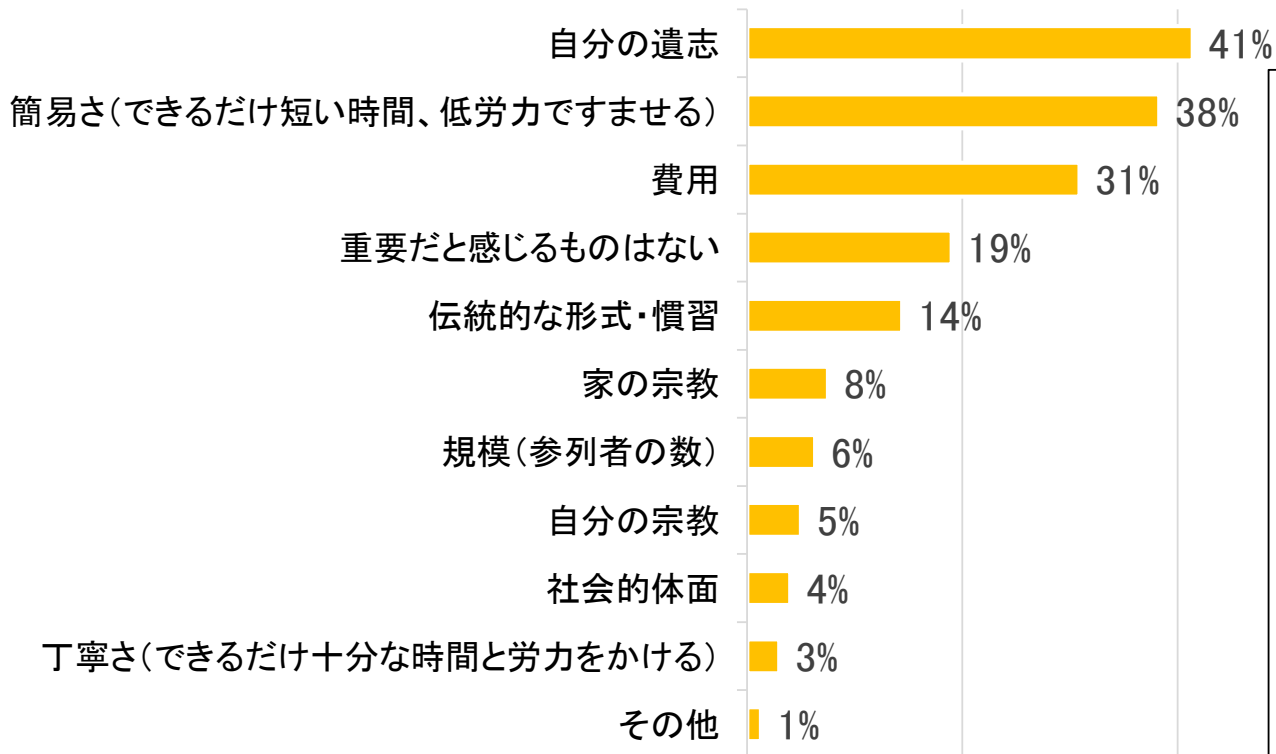
ポイント

- 遺志→費用→伝統的な形式・慣習→簡易さ、の順で割合が高く、家・故人の宗教は必ずしも優先順位は高くない。山陰・四国以外では費用が最も重視されており、伝統的な形式・慣習(※現状は仏式が大多数)への意識が低下すれば、仏式の葬送形態は今後も変化が続くと考えられる
- 女性のほうが故人の遺志、費用、簡素化を望み。男性のほうが伝統や社会的体面を重視 (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

葬儀で重視するもの(自分の葬儀)

問:あなたは、自分の葬儀において、何を重視しますか? 重要なものを3つまで選んでください。(複数回答)

葬儀で重視するもの(自分の葬儀)



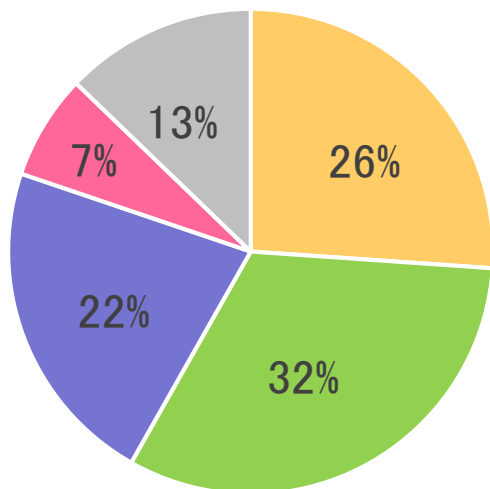
ポイント

- 全体としては、遺志→簡易さ→費用の順で重視する割合が高い。遺志に基づいて簡易さ・費用が重視されれば、葬儀の簡素化はさらに進展するのではないかと
- 男女とも年代が上がるにつれ遺志・簡易さを重視し、女性のほうが志向する傾向が強い。一方、伝統的な慣習・社会的体面は、年代が上がるにつれて重視する割合が低下 (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)
- 子どもがいる人のほう、仏事を依頼するお寺がある人のほうが、遺志・簡易さ・費用を重視。相続者への負担減や、葬儀を本業とする寺院との付き合いがあることで、かえって葬送の肥大化を避けたい心理が働くのではないかと (※同上)

希望する参列者(近親者の葬儀)

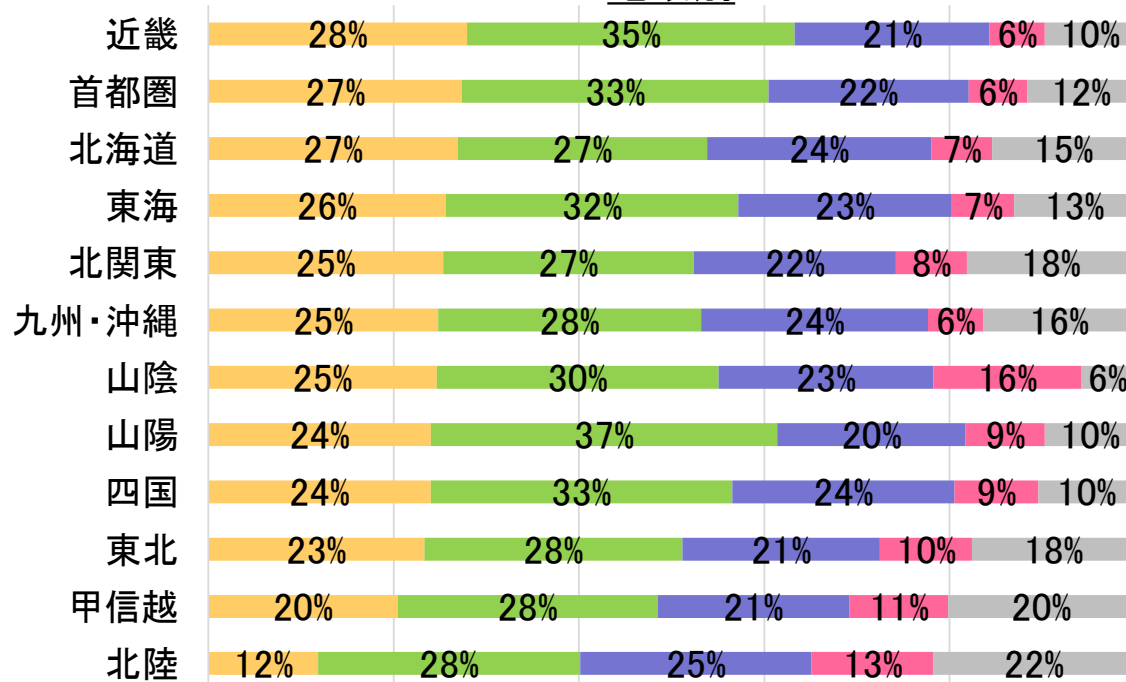
問:あなたは、家族など自分に近い人の葬儀には参列者をどこまで望みますか？

希望する参列者(近親者の葬儀)(N=10,000)



- 家族のみ
- 家族・親戚まで
- 家族・親戚・友人まで
- 家族・親戚・友人・近所まで
- 家族・親戚・友人・近所、仕事など生前にご縁があった人

地域別



- 家族のみ
- 家族・親戚まで
- 家族・親戚・友人まで
- 家族・親戚・友人・近所まで
- 家族・親戚・友人・近所をはじめ、仕事など生前にご縁があった多くの人

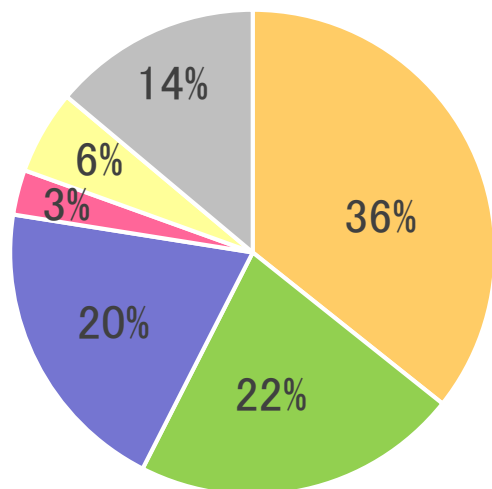
ポイント

• 全体で約6割が家族・親戚までの参列を望む。大多数の地域でも5割以上が家族・親戚までの参列を望んでいる

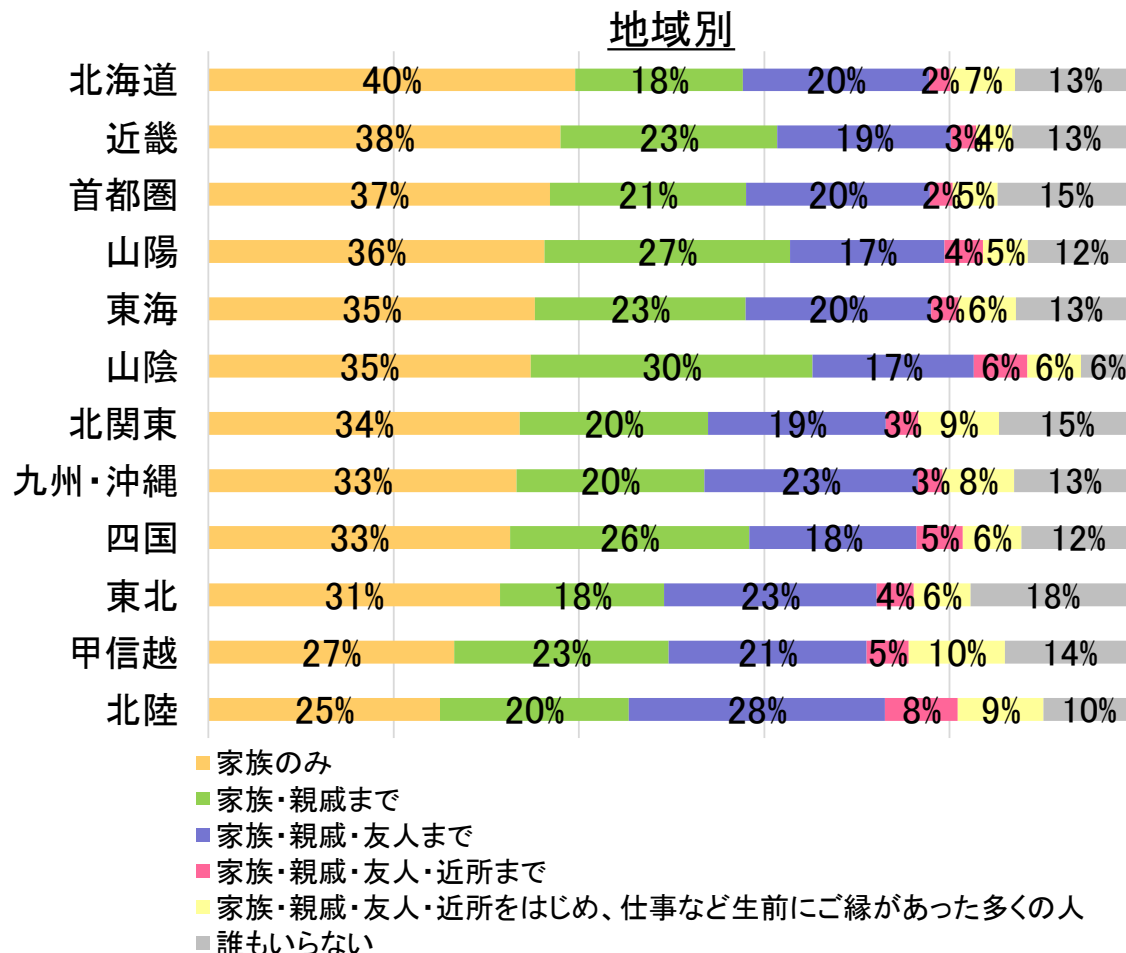
希望する参列者(自分の葬儀)

問:あなたは、自分の葬儀には参列者をどこまで望みますか？

希望する参列者(自分の葬儀) (N=10,000)



- 家族のみ
- 家族・親戚まで
- 家族・親戚・友人まで
- 家族・親戚・友人・近所まで
- 家族・親戚・友人・近所、仕事など生前にご縁があった人
- 誰もいない



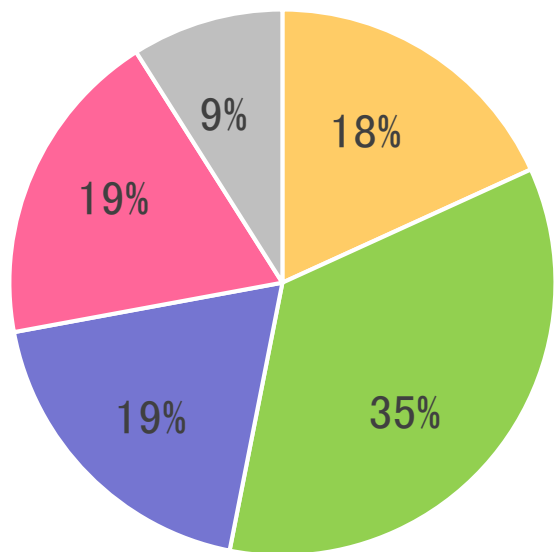
ポイント

・全体で約6割が家族・親戚までの参列を望む。近親者の葬儀よりも、家族のみの参列を望む人が増加

僧侶の読経(近親者の葬儀)

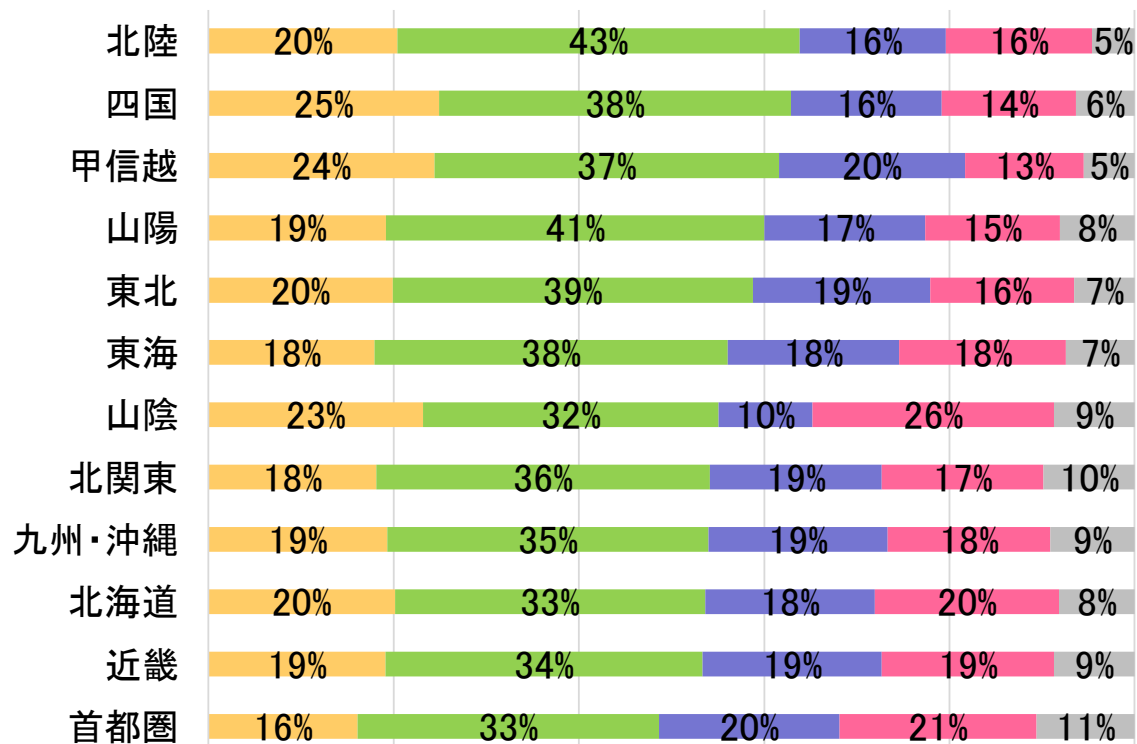
問:あなたは、家族など自分に近い人の葬儀には、僧侶がお経を読むことは必要ですか？

僧侶の読経(近親者の葬儀) (N=10,000)



- とても必要
- 比較的 necessary
- どちらでも良い
- あまり必要でない
- 全く必要でない

地域別



- とても必要
- 比較的 necessary
- どちらでも良い
- あまり必要でない
- 全く必要でない

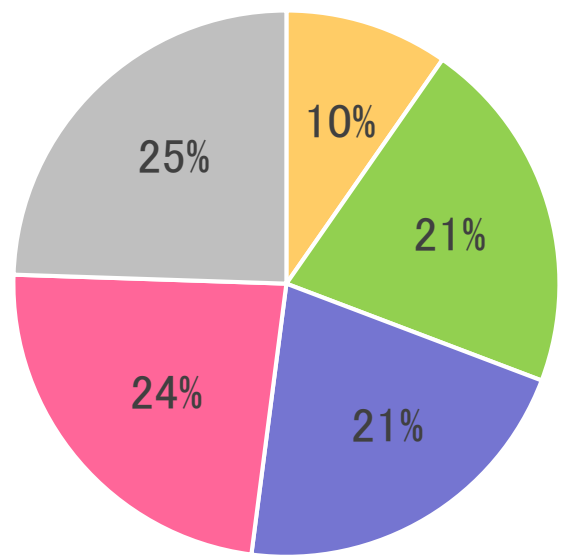
ポイント

- とても必要、比較的 necessaryと答えた人は約53%で、首都圏以外の全地域で5割を超えており、仏式による葬儀が大半を占める現状を支えていると考えられる
- 子どもがいる人の約7割、お寺がある人の約7割が、必要(とても&比較的)と感じている (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

僧侶の読経(自分の葬儀)

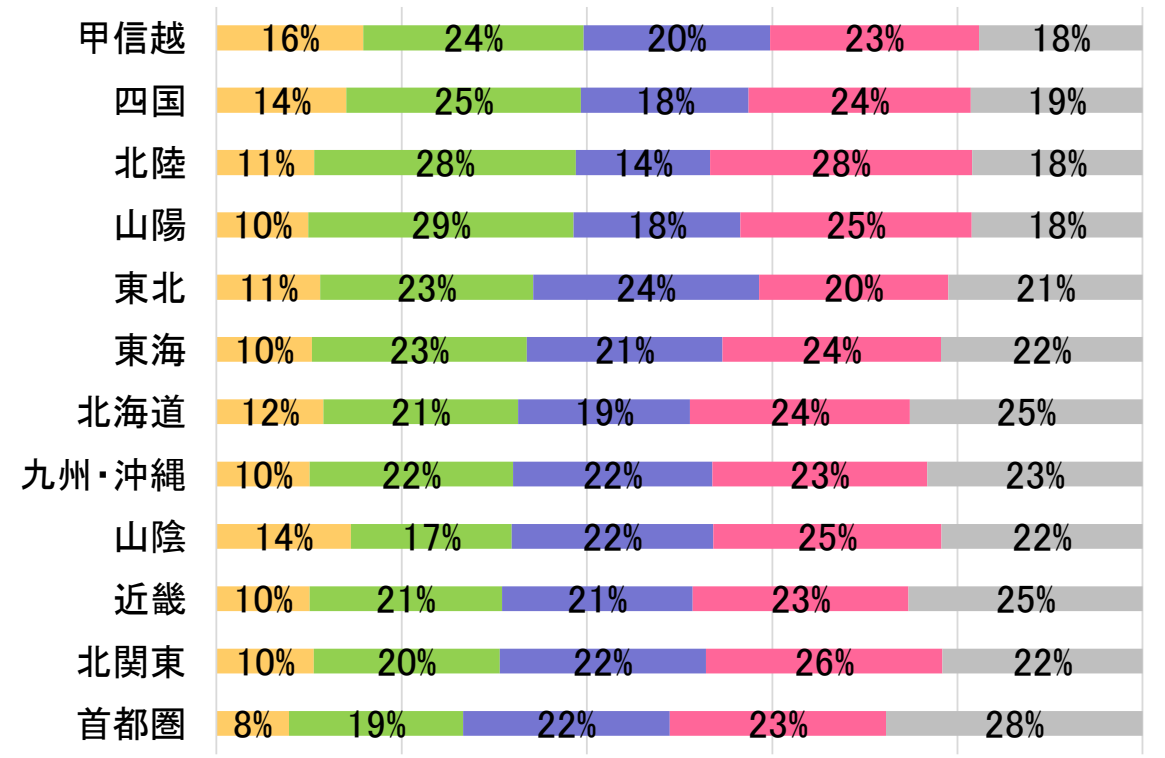
問:あなたは、自分の葬儀において、僧侶がお経を読むことは必要ですか？

僧侶の読経(自分の葬儀) (N=10,000)



■ とても必要
 ■ 比較的必要
 ■ どちらでも良い
■ あまり必要でない
 ■ 全く必要でない

地域別



■ とても必要
 ■ 比較的必要
 ■ どちらでも良い
 ■ あまり必要でない
 ■ 全く必要でない

ポイント

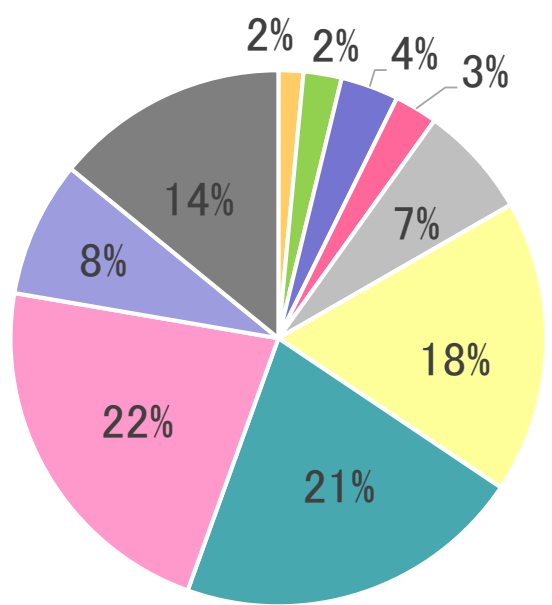
- とても必要、比較的必要と答えた人は約3割。一方、不要(全く&あまり)と感じる人も約5割おり、自身の葬儀において読経の必要性を感じない人は多い
- 読経の必要性を感じるのは、仏事を依頼するお寺がある人でも約4割にとどまる (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

葬儀のお布施(近親者の葬儀)

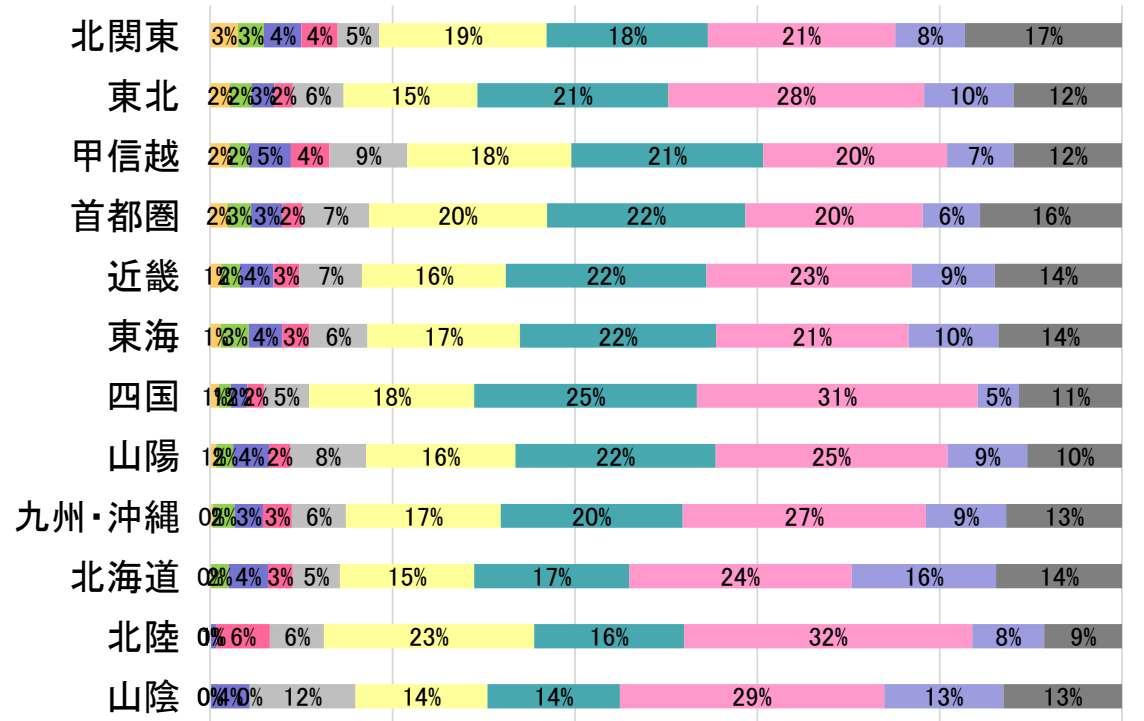
問:あなたは、家族など自分に近い人の葬儀で、僧侶が心のこもった丁寧な読経や法話、対応をしてくれた時、どの程度の金額をお布施としてお渡しますか？

葬儀のお布施(近親者の葬儀) (N=10,000)

地域別



- 50万円以上
- 30万円-50万円未満
- 20万円-30万円未満
- 15万円-20万円未満
- 10万円-15万円未満
- 5万円-10万円未満
- 3万円-5万円未満
- 1万円-3万円未満
- 1万円未満
- お布施はしない



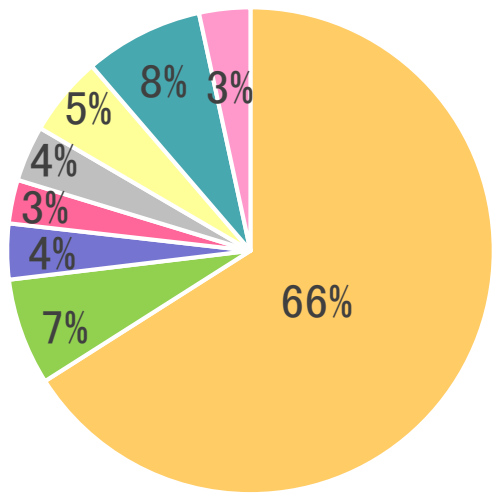
- 50万円以上
- 30万円-50万円未満
- 20万円-30万円未満
- 15万円-20万円未満
- 10万円-15万円未満
- 5万円-10万円未満
- 3万円-5万円未満
- 1万円-3万円未満
- 1万円未満
- お布施はしない

ポイント
 ・10万円未満が全体の8割強、30万円以上に限ると約4%。実際は、寺院・僧侶との関係性や、葬儀執行の場のリアリティが考慮されることでお布施金額は上積みされる可能性はあるが、生活者のお布施水準に関する目線は厳しい

埋葬形態(近親者のお骨)

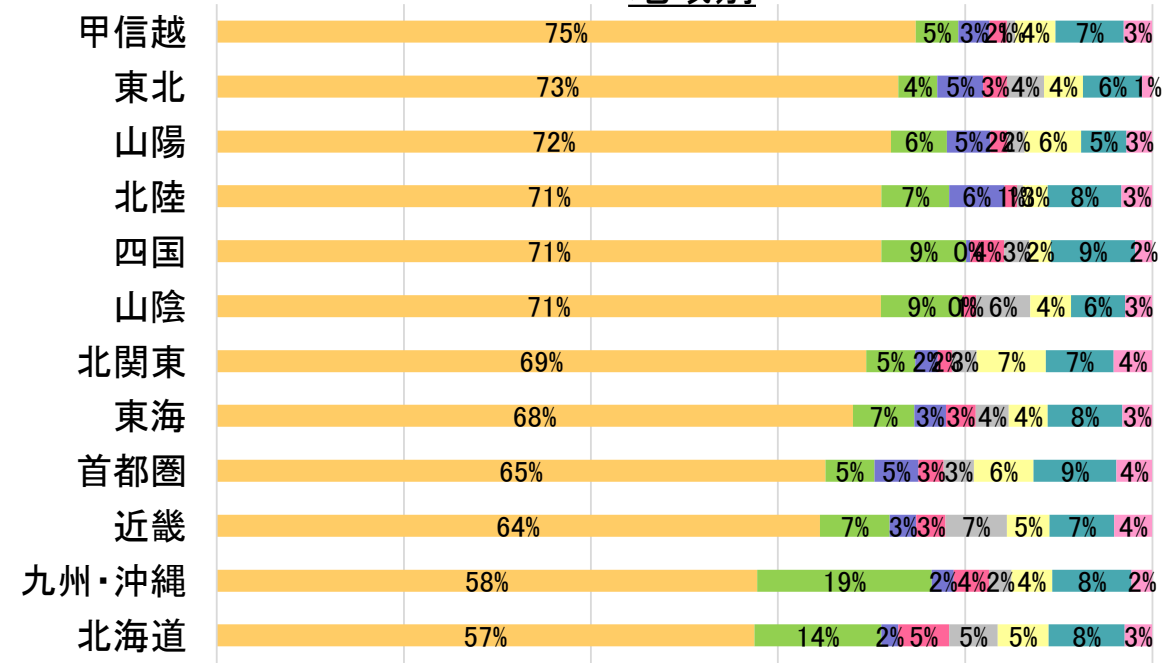
問:あなたは、家族など自分に近い人のお骨を、どのように埋葬したいですか？

埋葬形態(近親者のお骨) (N=10,000)



- 先祖・家族と同じお墓
- 先祖・家族と同じ納骨堂
- 先祖・家族とは異なるお墓
- 先祖・家族とは異なる納骨堂
- 不特定多数の人と一緒に埋葬されるお墓(合葬墓)
- 樹木の下の地中(樹木葬)
- 海洋等に散骨
- その他

地域別



- 先祖・家族と同じお墓
- 先祖・家族と同じ納骨堂
- 先祖・家族とは異なるお墓
- 先祖・家族とは異なる納骨堂
- 不特定多数の人と一緒に埋葬されるお墓(合葬墓)
- 樹木の下の地中(樹木葬)
- 海洋等に散骨
- その他

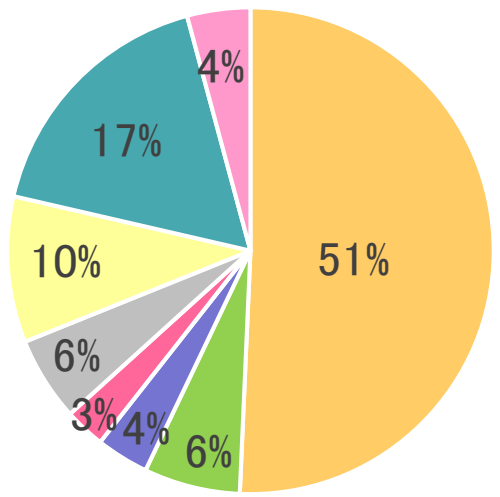
ポイント

- 7割強の人が、先祖・家族と同じお墓・納骨堂に埋葬の意向
- 女性のほうが埋葬形態の多様化を志向し、男性のほうが家族と同じお墓を志向する傾向 (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)
- 仏事を依頼するお寺がある人のほうが家族と同じお墓・納骨堂を志向し、お寺がない人のほうが多様化を志向 (※同上)
- 樹木葬が年長者になるほど割合が高くなるが、海洋散骨は若い人ほど割合が高くなる傾向 (※同上)

埋葬形態(自分のお骨)

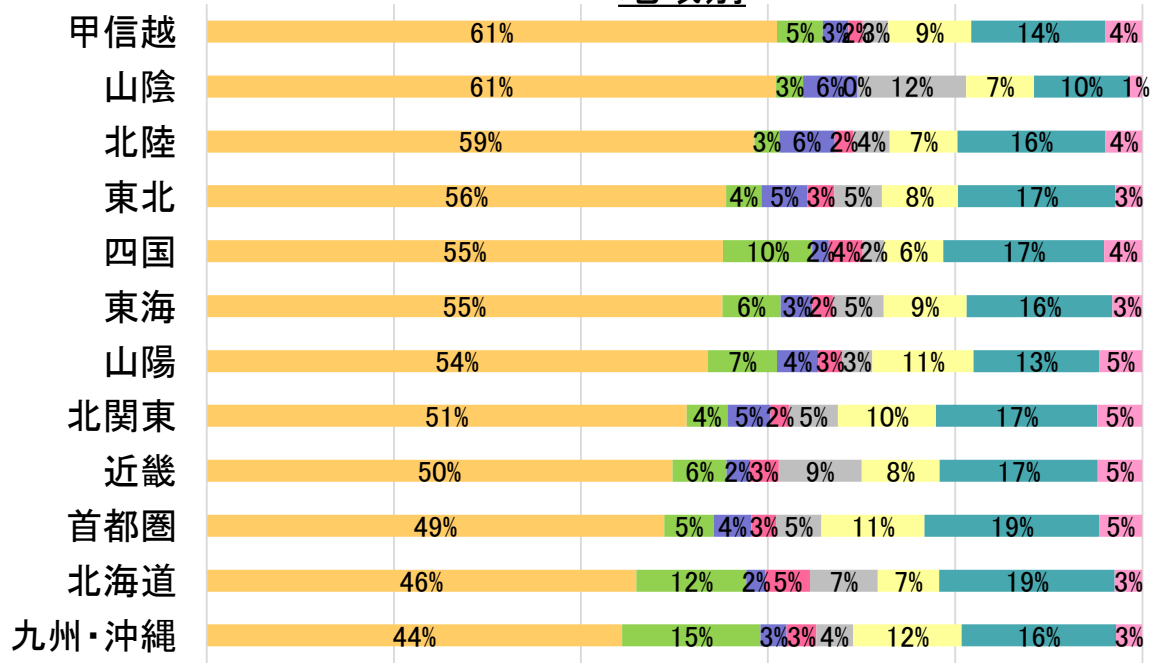
問:あなたは、自分のお骨を、どのように埋葬してほしいですか？

埋葬形態(自分のお骨) (N=10,000)



- 先祖・家族と同じお墓
- 先祖・家族と同じ納骨堂
- 先祖・家族とは異なるお墓
- 先祖・家族とは異なる納骨堂
- 不特定多数の人と一緒に埋葬されるお墓(合葬墓)
- 樹木の下の中(樹木葬)
- 海洋等に散骨
- その他

地域別



- 先祖・家族と同じお墓
- 先祖・家族と同じ納骨堂
- 先祖・家族とは異なるお墓
- 先祖・家族とは異なる納骨堂
- 不特定多数の人と一緒に埋葬されるお墓(合葬墓)
- 樹木の下の中(樹木葬)
- 海洋等に散骨
- その他

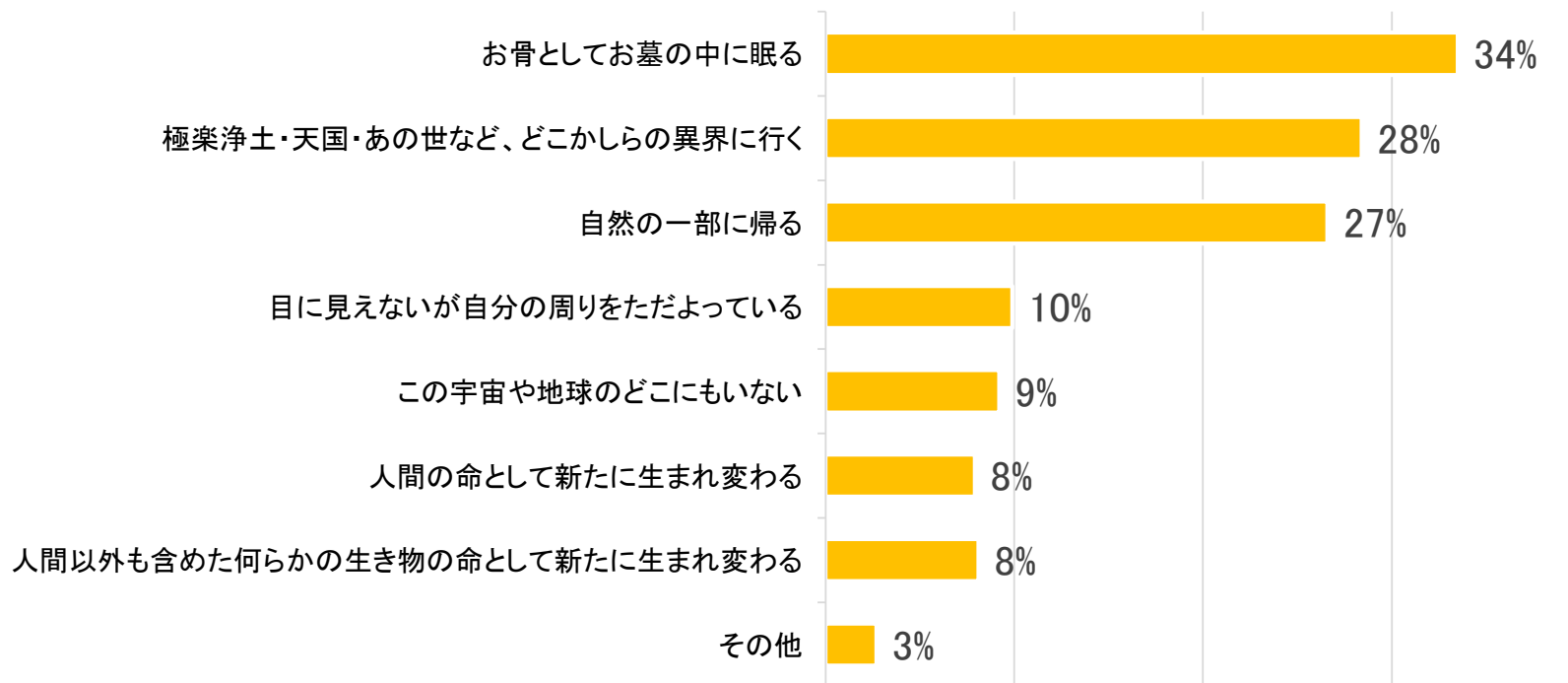
ポイント

- 6割弱の人が、先祖・家族と同じお墓・納骨堂に埋葬の意向
- 近親者のお骨に比べて海洋散骨・樹木葬を望む割合が高まり、特に女性は樹木葬の比率が上昇(※紙幅の関係上、グラフ未掲載)
- 女性は年齢が上がると樹木葬、下がると海洋散骨の割合が高まる(※同上)
- 子どもがいない60歳以上の女性は、海洋散骨・樹木葬・永代供養が約半数を占める(※同上)

死後の行き先(近親者)

問:あなたは、家族など自分に近い人は、死後にどこに行く(どこにいる)と思いますか?(最大2つまで選択)

死後の行き先(近親者)

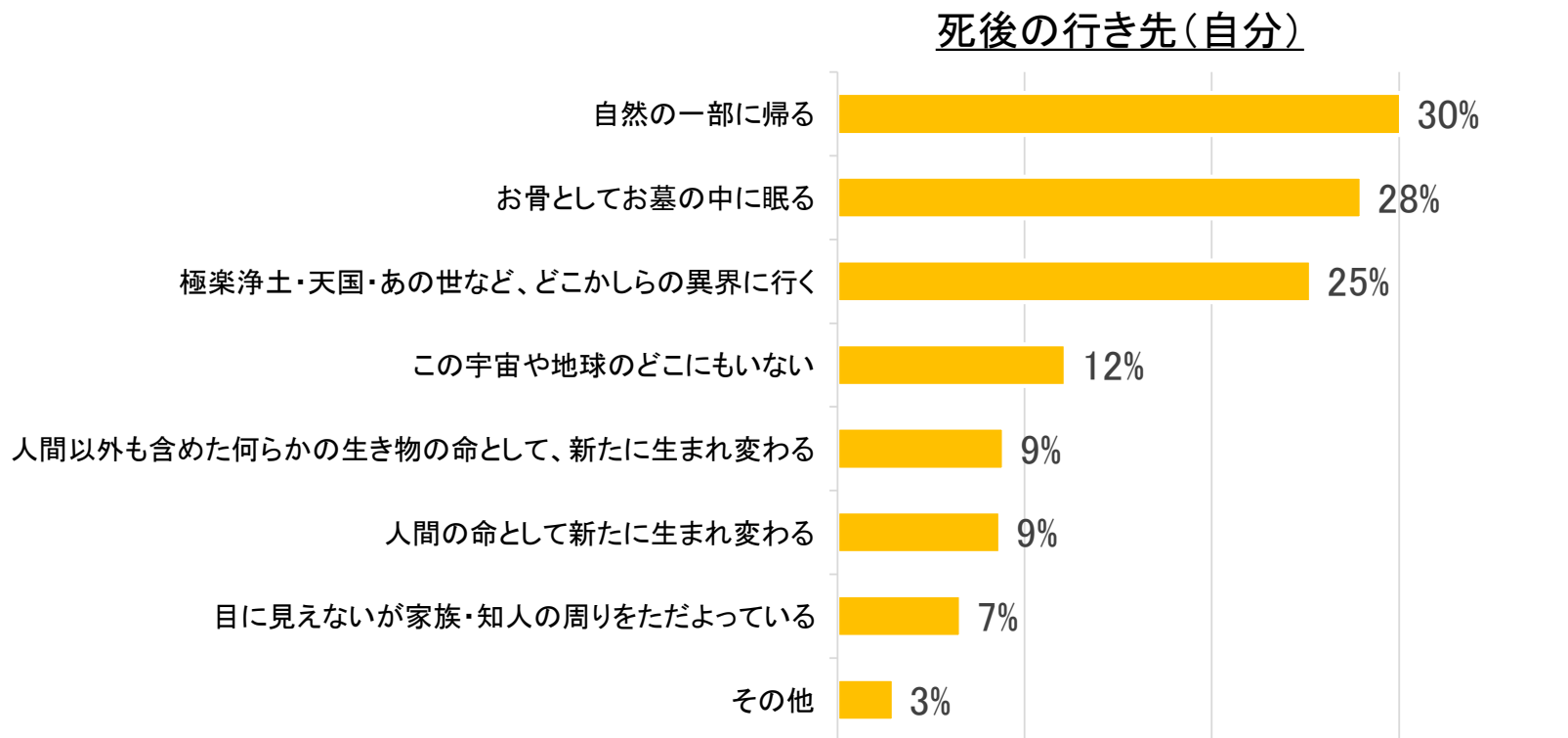


ポイント

- 全体としては、お骨→異界→自然の一部の順に多数派を占める
- 若年層ほど死んだら自然の一部に帰るという価値観の割合が低下 (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)
- 若い女性ほど「異界」の割合が増加(男性は変化傾向なし) (※同上)
- 輪廻志向(人間の命 or 人間以外も含めた命)は男女とも若年層ほど割合が高まる (※同上)

死後の行き先(自分)

問:あなたは、自分に近い人は、死後にどこに行く(どこにいる)と思いますか？(最大2つまで選択)



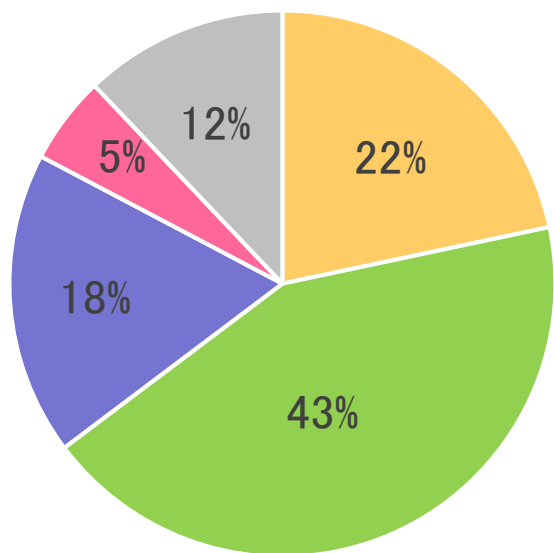
ポイント

- 全体としては、自然の一部→お骨→異界の順に多数派を占める
- 輪廻志向(人間の命 or 人間以外も含めた命)は男女とも若年層になるほど、仏事を依頼するお寺がない人、子どもがいない人ほど割合は高まり、女性は人間の命に生まれ変わると答える比率が高い (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

死後の生前決定

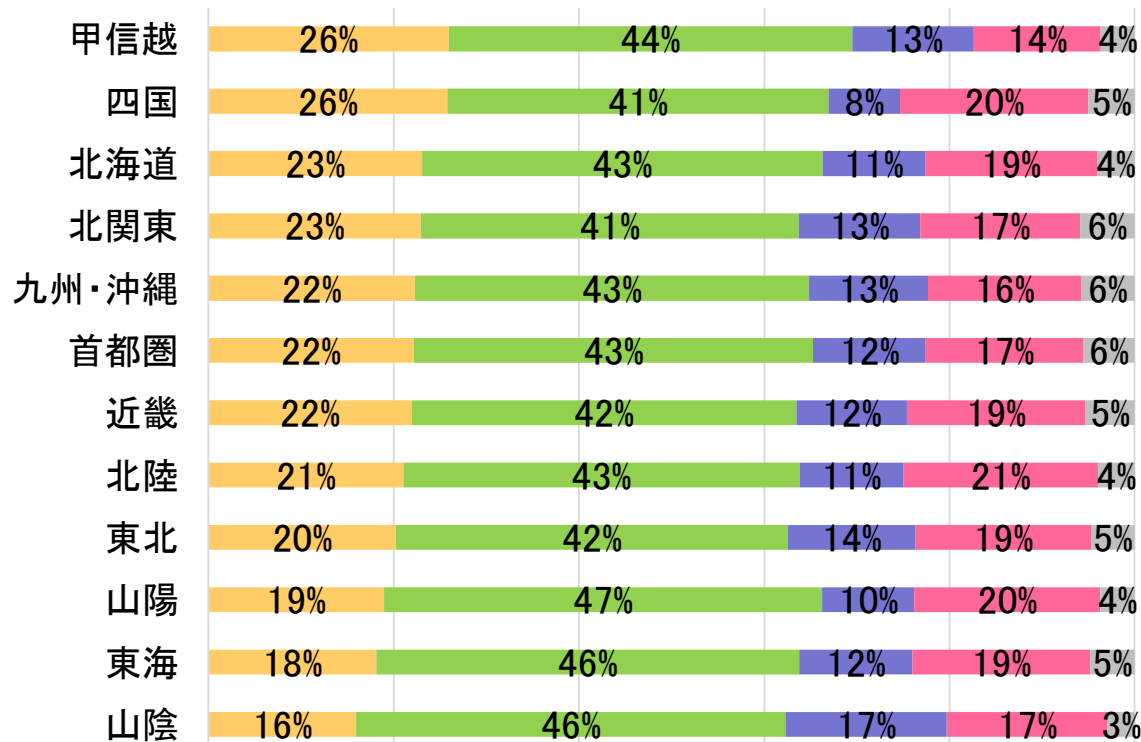
問:あなたは、自分の死後のことを考えて、生前に様々な物事を決めておきたいと思いますか？

死後の生前決定 (N=10,000)



- とても思う
- 比較的思う
- あまり思わない
- 全く思わない
- 分からない

地域別



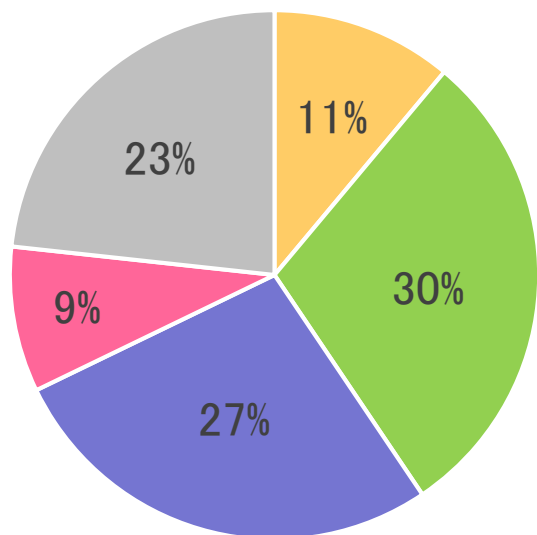
- とても思う
- 比較的思う
- あまり思わない
- 全く思わない
- 分からない

ポイント

- 全地域で6割強が肯定的。性別でも女性の約7割、男性の約6割が肯定的な反応
- 年齢が上がるほう、子どもがいる人のほう、仏事を依頼するお寺がある人のほうが肯定的な傾向 (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

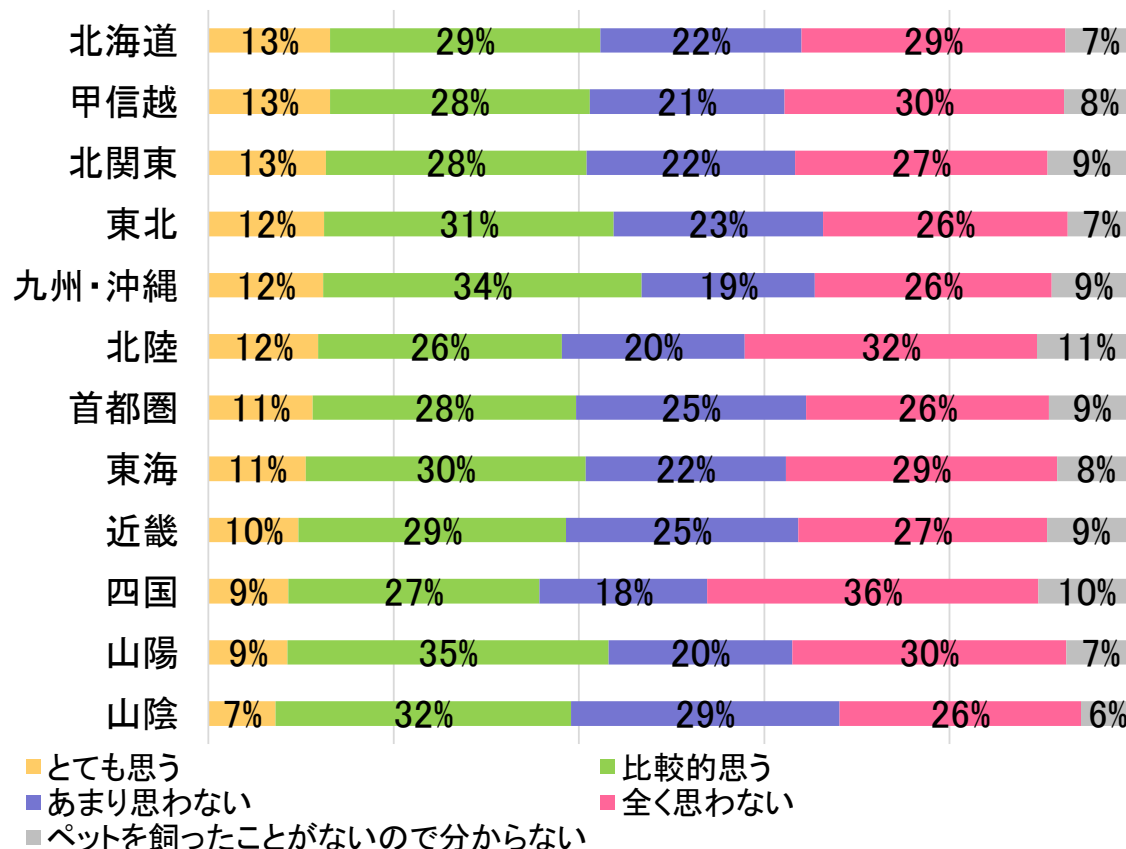
問: あなたは犬・猫をはじめとしたペットは、人間同様に丁寧な葬儀などで弔うべきだと思いますか？

ペット供養 (N=10,000)



- とても思う
- 比較的思う
- あまり思わない
- 全く思わない
- ペットを飼ったことがないので分からない

地域別



- とても思う
- 比較的思う
- あまり思わない
- 全く思わない
- ペットを飼ったことがないので分からない

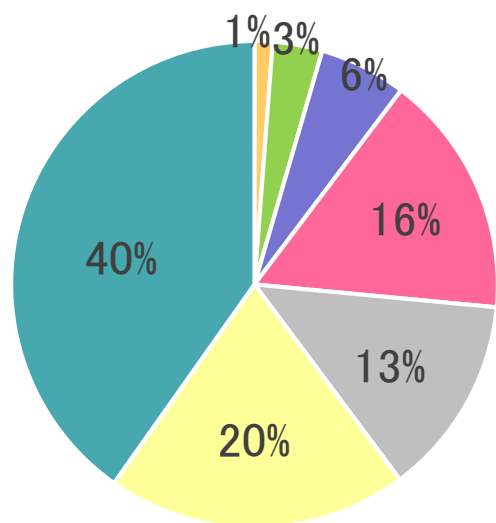
ポイント

- 全体としては約4割が肯定的
- 女性のほう、若い人のほうが肯定感が高まる (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

年間のお寺へのお参り回数

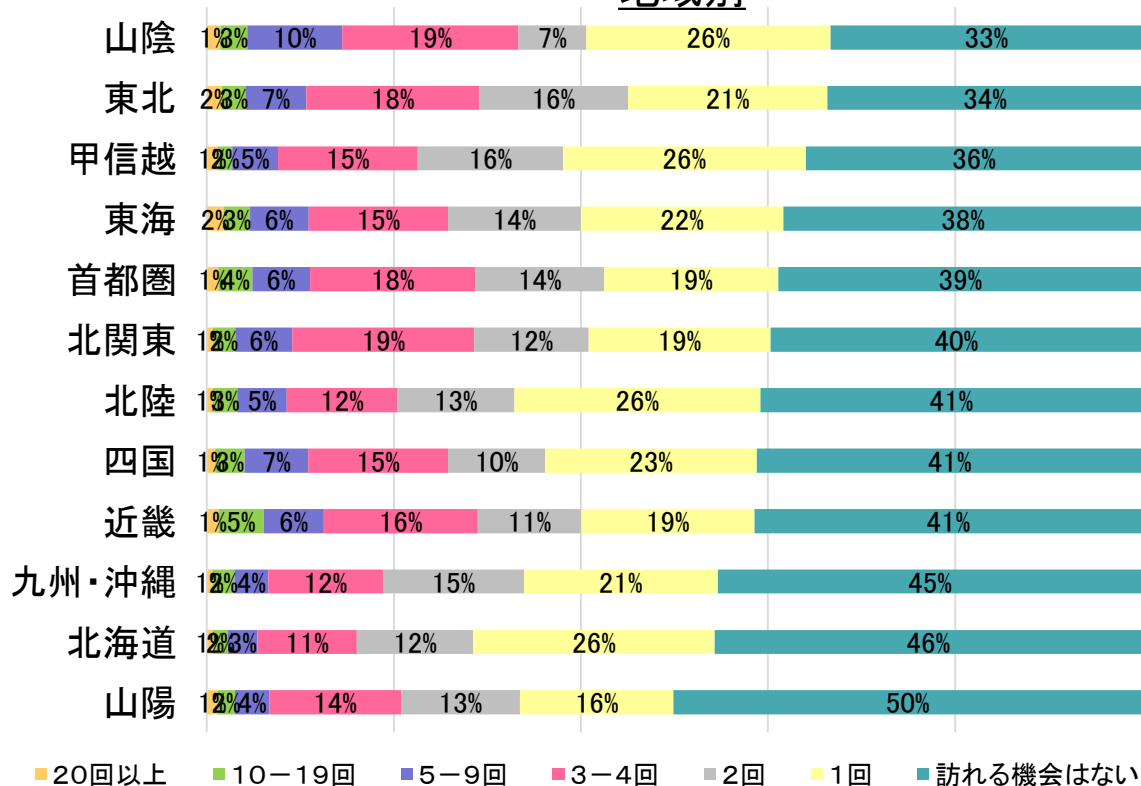
問:あなたが、一年間に、お寺を訪れる回数を教えてください。

年間のお寺へのお参り回数 (N=10,000)



■ 20回以上 ■ 10-19回 ■ 5-9回
■ 3-4回 ■ 2回 ■ 1回
■ 訪れる機会はない

地域別



■ 20回以上 ■ 10-19回 ■ 5-9回 ■ 3-4回 ■ 2回 ■ 1回 ■ 訪れる機会はない

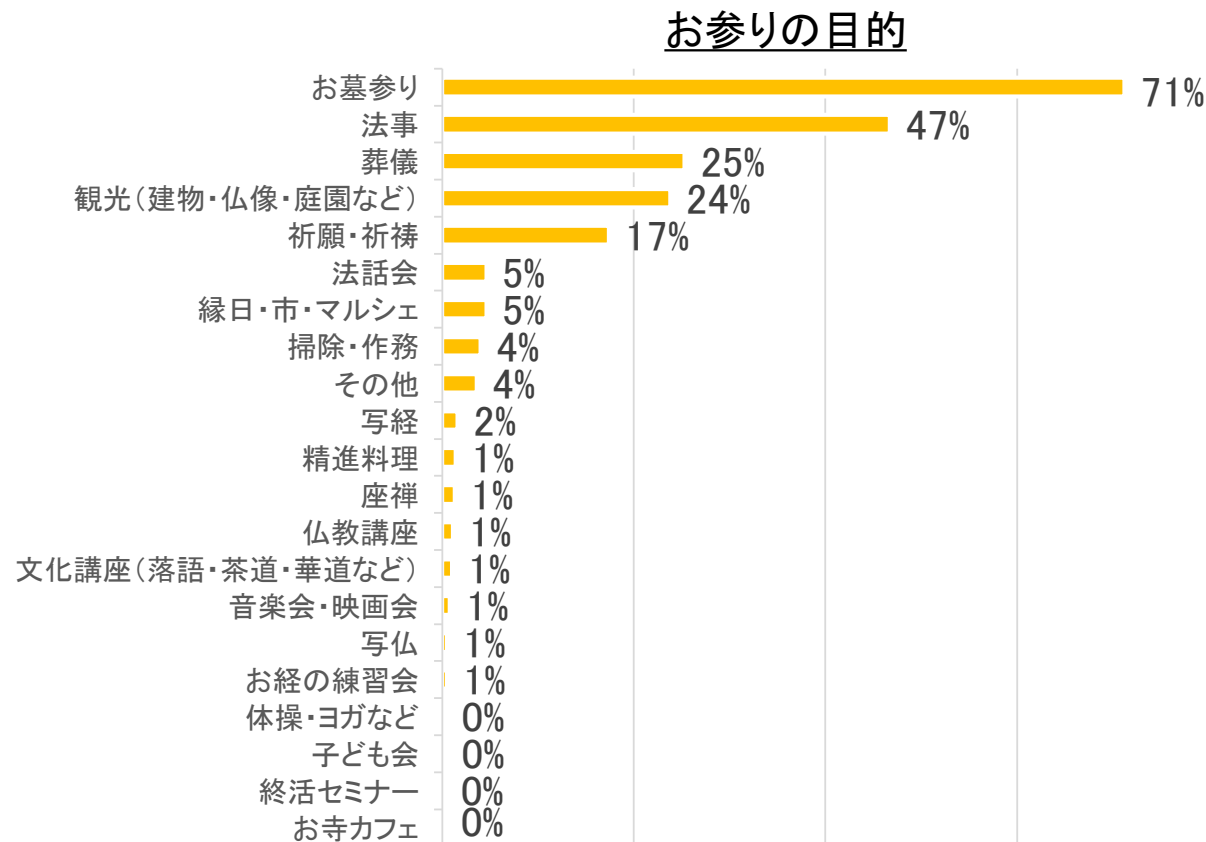
ポイント

- 全体としては約6割が年間1回以上お参りしているが、1-4回が約5割を占めており、お盆・お彼岸・年末年始などの季節の節目のお参りがほとんどと考えられる
- 約4割が年間の参詣機会がなく、仏事を依頼するお寺がない場合は参詣しない人が約6割に上昇(※紙幅の関係上、グラフ未掲載)
- 年齢が上がったほう、子どもがいる人のほう、仏事を依頼するお寺がある人のほうが参詣頻度が上がる傾向 (※同上)

「寺院・僧侶に関する生活者の意識調査」

調査結果（参詣回数1回以上）（N=2,000）

問: あなたがお寺を訪れる際の主な目的を教えてください。(複数選択)

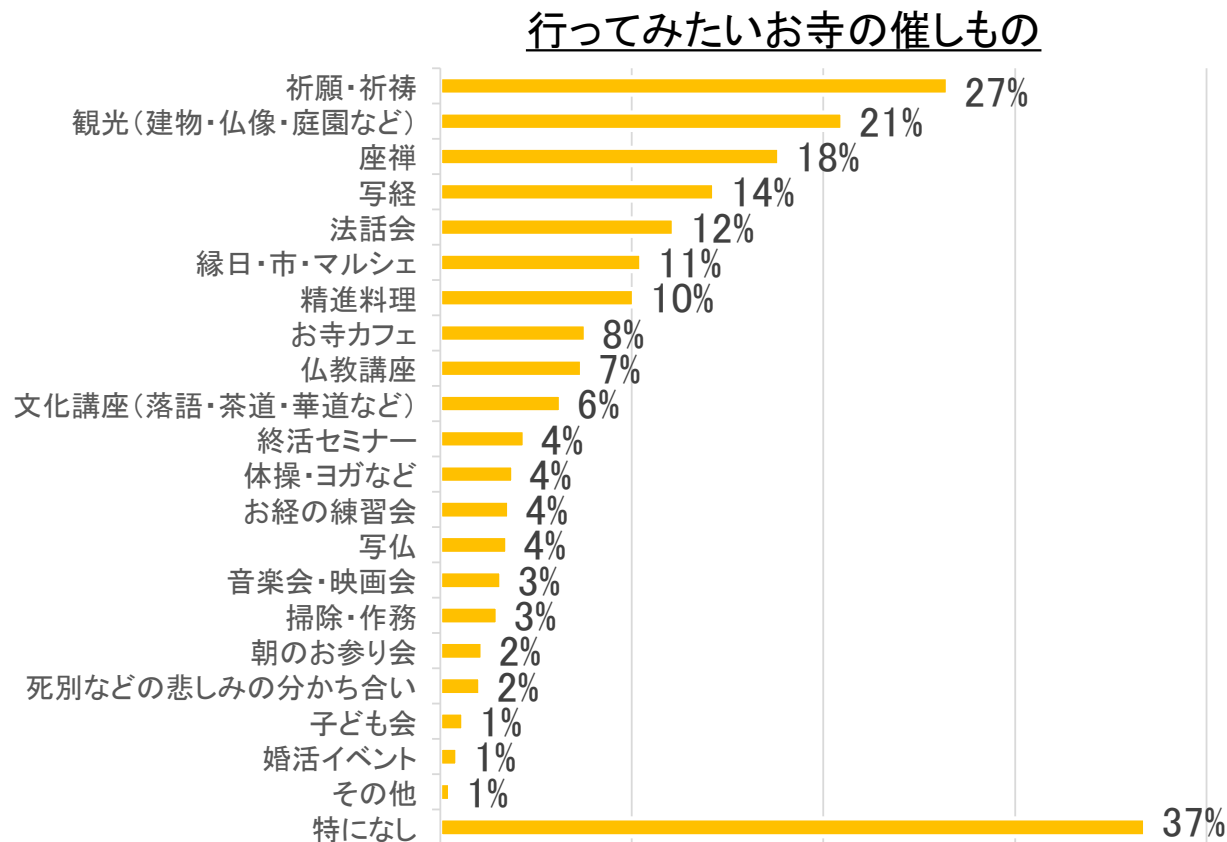


ポイント

- お墓参り→法事→葬儀→観光→祈願・祈祷の順に割合が高く、大多数を占める
- 子どもがいる人のほう、仏事を依頼するお寺がある人のほうが、墓参り・法事・葬儀の割合が高い(※紙幅の関係上、グラフ未掲載)
- 仏事を依頼するお寺がない人のほうが祈願・祈祷、観光の割合が高い(※同上)
- 年齢が上がるほど、供養、法話会の割合が高まる(※同上)

行ってみたいお寺の催しもの

問：あなたが行ってみたいと思うお寺の催しものを教えてください。（複数選択）

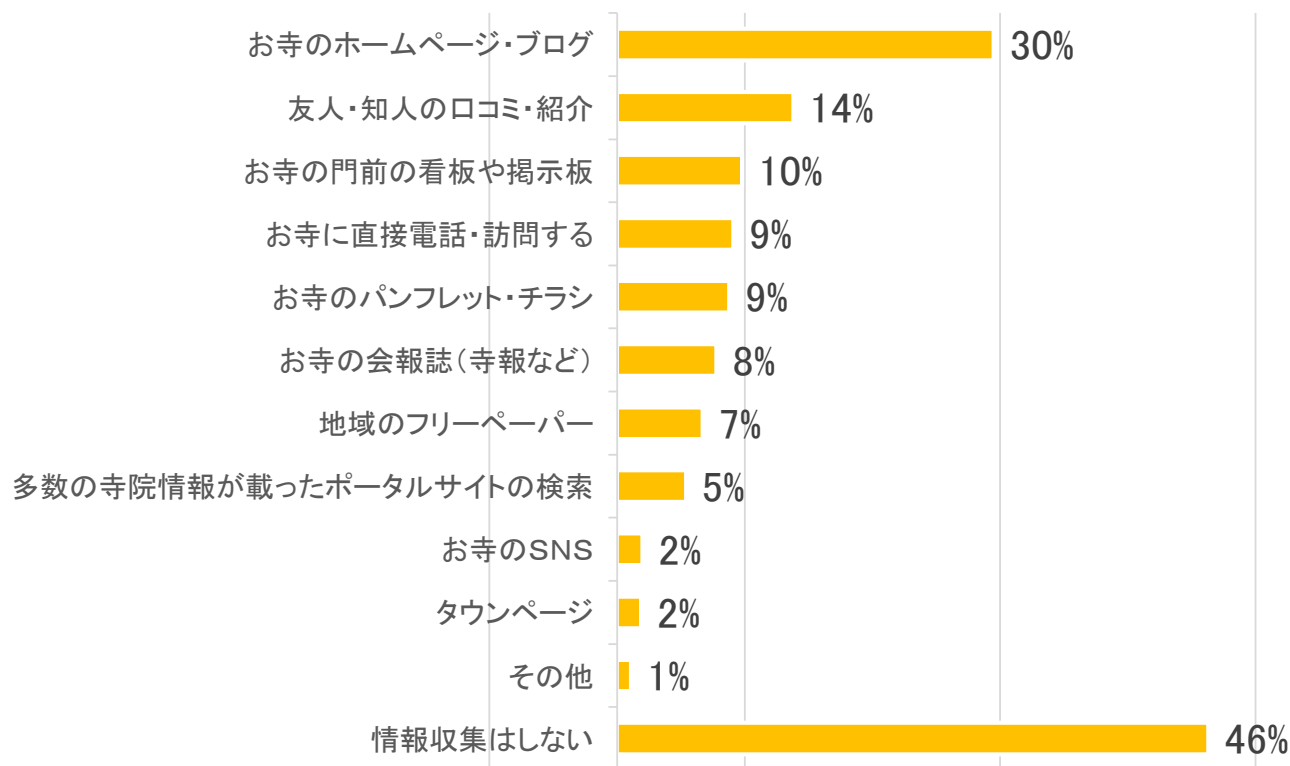


ポイント

- 祈願・祈祷→観光→坐禅→写経→法話会の順に割合が高く、女性がより関心を示す一方、無関心層も約4割存在
- 上位5つは男性は70代(→定年後で時間あり)、女性は30代(→晩婚化でお金と時間あり)が最も関心を示す (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)
- 坐禅・写経・写仏・お経練習・文化講座・体操・ヨガ・掃除・作務・朝のお参り等の体験系は30代男女が最も関心を示す(※同上)
- 年齢が上がるほど、写経・法話会・仏教講座・写仏などへの関心が高まる (※同上)

問:あなたは、お寺に関する情報を調べる時に、どのような方法で情報収集しますか。(複数選択)

お寺に関する情報収集方法



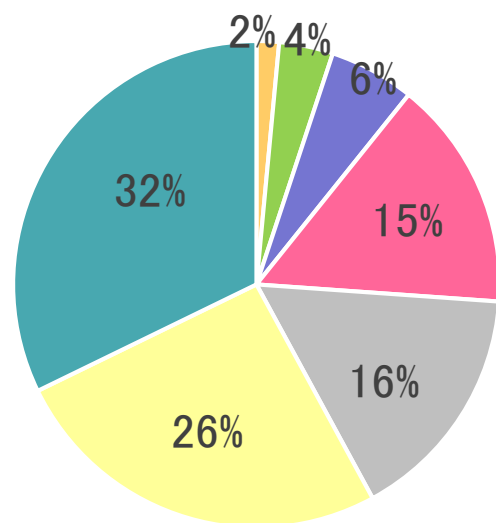
ポイント

- (インターネット調査であることも関係していると考えられるが)HP・ブログ→口コミ→門前掲示板→直接電話・訪問→パンフ・チラシの順に割合が高く、年齢による差は見られにくい
- 女性ほど口コミを情報収集に活用している傾向 (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

年間に僧侶と会う回数

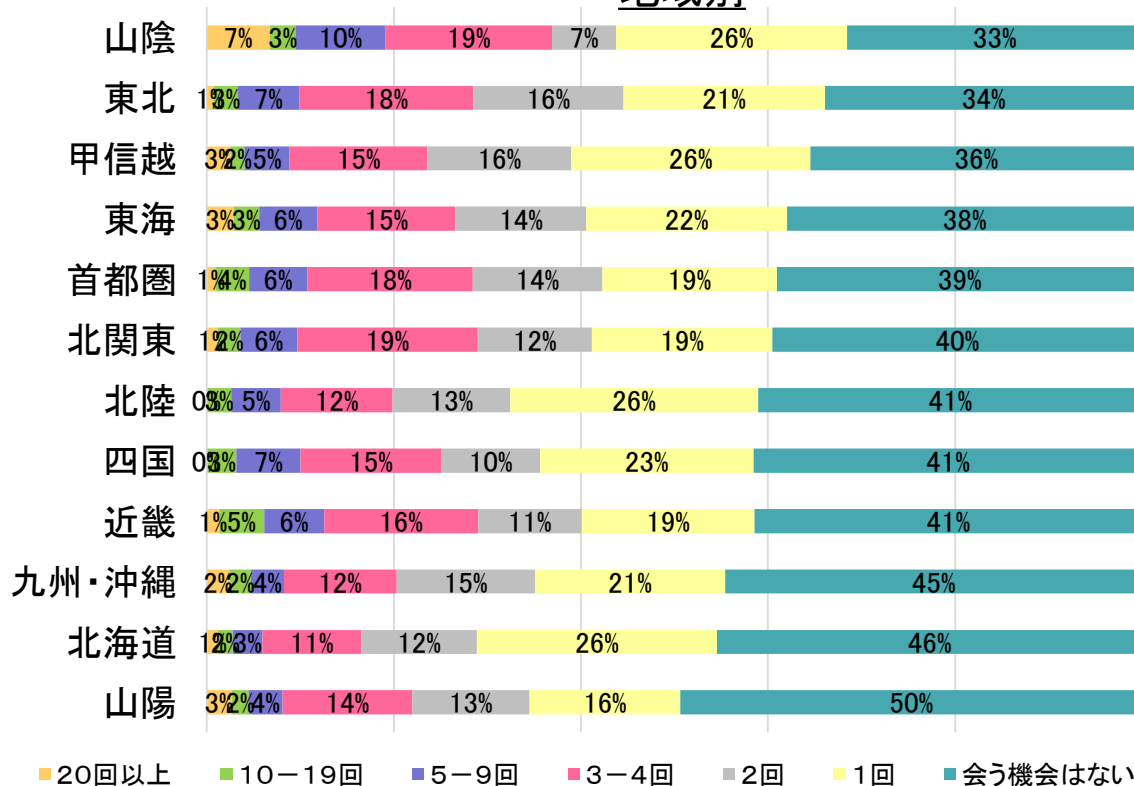
問：あなたが一年間にお坊さんと会う回数を教えてください。

年間に僧侶と会う回数 (N=2,000)



- 20回以上
- 10-19回
- 5-9回
- 3-4回
- 2回
- 1回
- 会う機会はない

地域別



- 20回以上
- 10-19回
- 5-9回
- 3-4回
- 2回
- 1回
- 会う機会はない

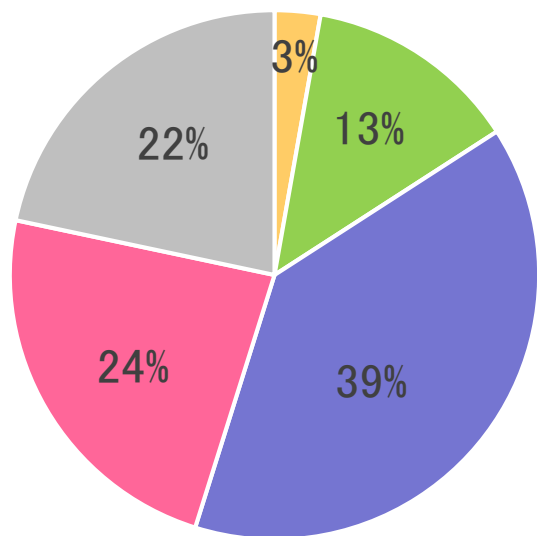
ポイント

- 約7割の人が年間で1回以上、僧侶と会う機会がある
- 約6割弱が接触回数が4回以下のため、お盆・お彼岸・正月などでの接触がほとんどと推察され、日常的な接触は少ないと考えられる

僧侶による傾聴

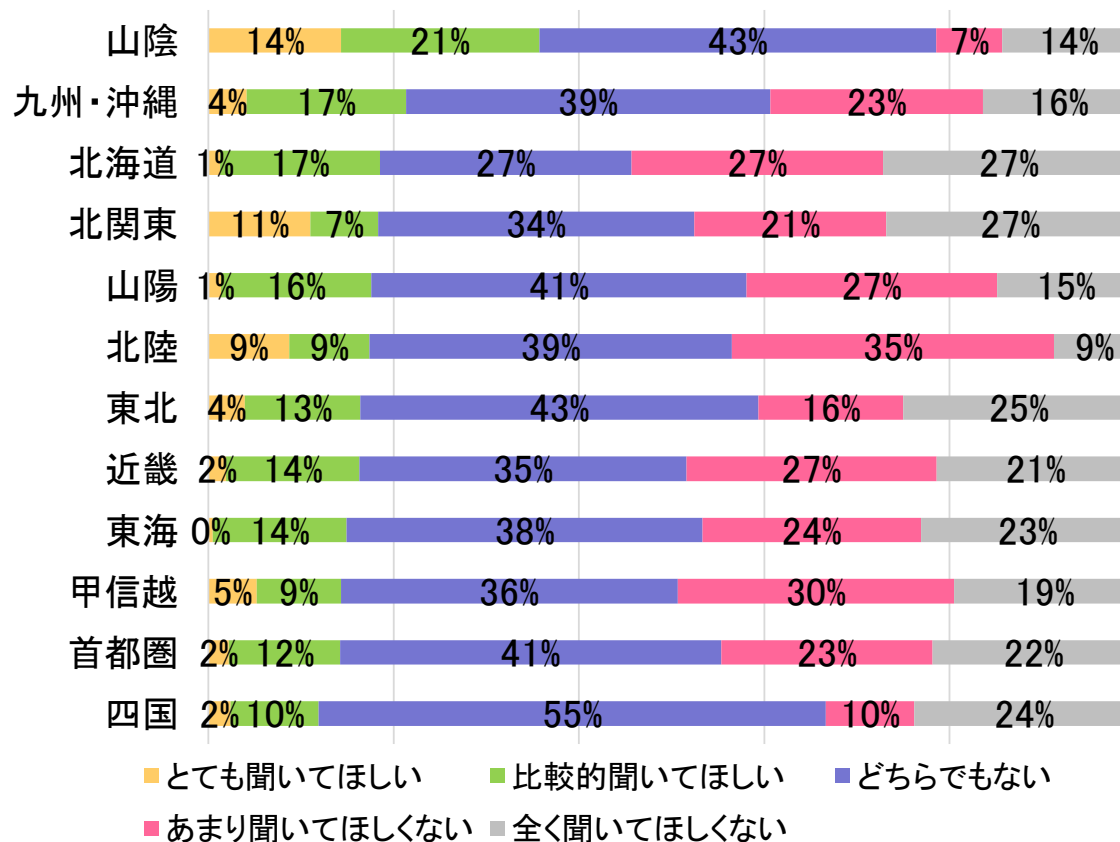
問：あなたは、お寺で住職やお坊さんに悩みや話を聞いてほしいと思いますか？

僧侶による傾聴 (N=2,000)



- とても聞いてほしい
- 比較的聞いてほしい
- どちらでもない
- あまり聞いてほしくない
- 全く聞いてほしくない

地域別



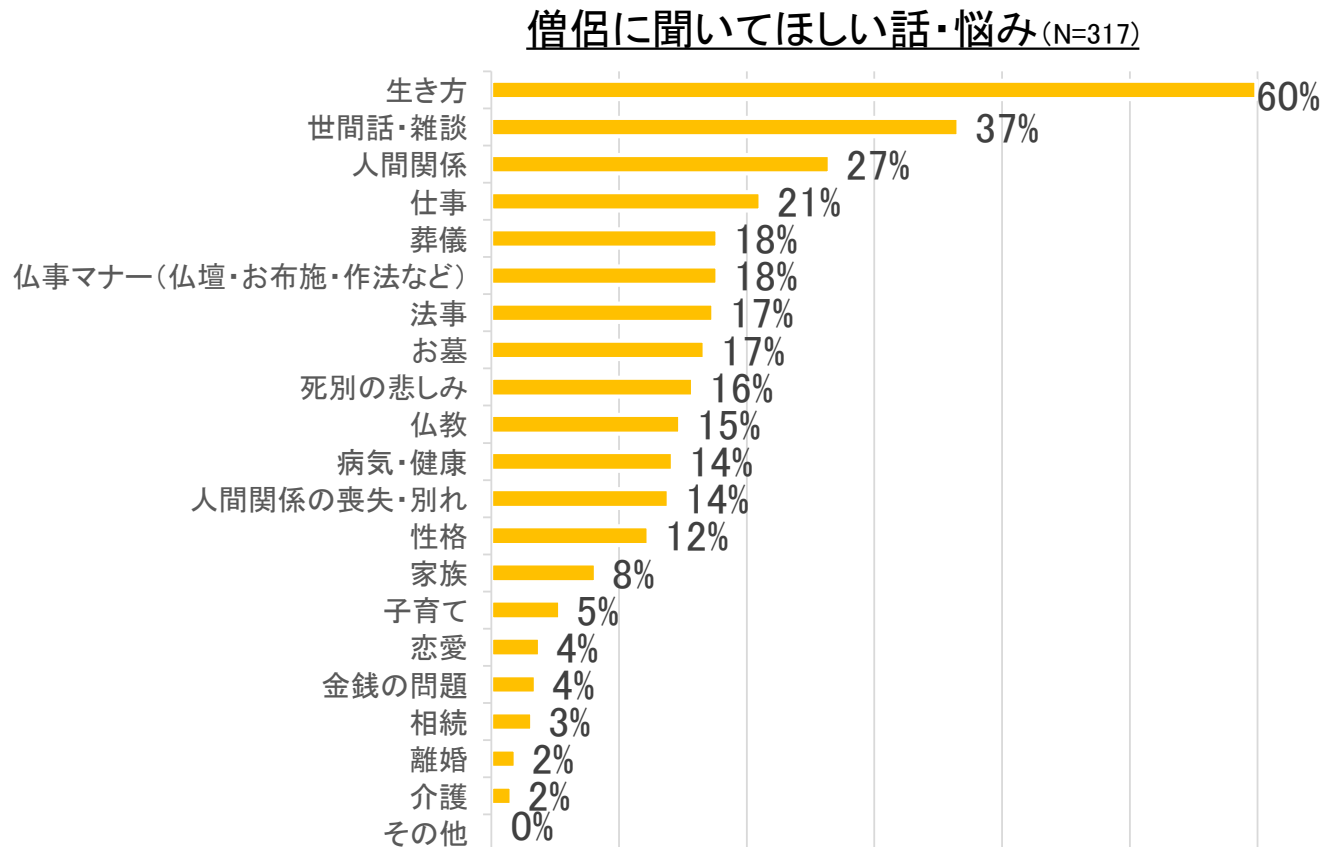
- とても聞いてほしい
- 比較的聞いてほしい
- どちらでもない
- あまり聞いてほしくない
- 全く聞いてほしくない

ポイント

- 聞いてほしいという肯定が2割を下回る。どちらでもないという浮遊層も約4割いる
- 男女とも年齢が下がるほど肯定的評価が高まる傾向 (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

僧侶に聞いてほしい話・悩み (※僧侶に悩みを聞いてほしいと答えた人のみ回答)

問:あなたは、お寺で住職やお坊さんにどのような悩みや話を聞いてほしいと思いますか？(複数選択)



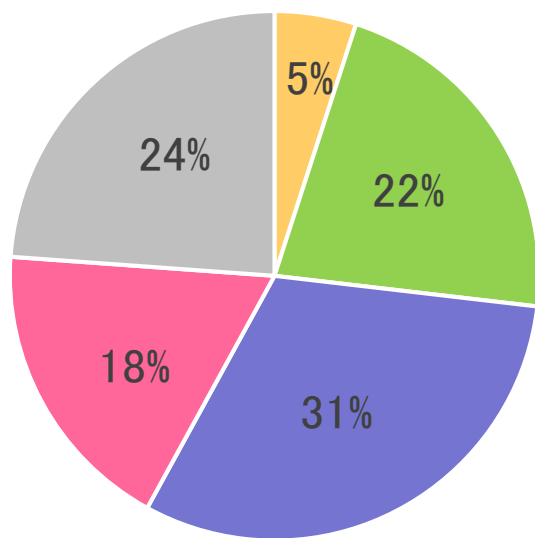
ポイント

- 生き方6割、世間話・雑談4割弱、人間関係3割弱、仕事2割、仏事関係全般2割弱という結果
- 男性のほうが世間話・雑談、仕事、仏事関係全般の割合が高い (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)
- 仏事を依頼するお寺がない人のほうが「生き方」について聞いてほしい割合が高い (※同上)

生前における寺院・僧侶への死後事務相談

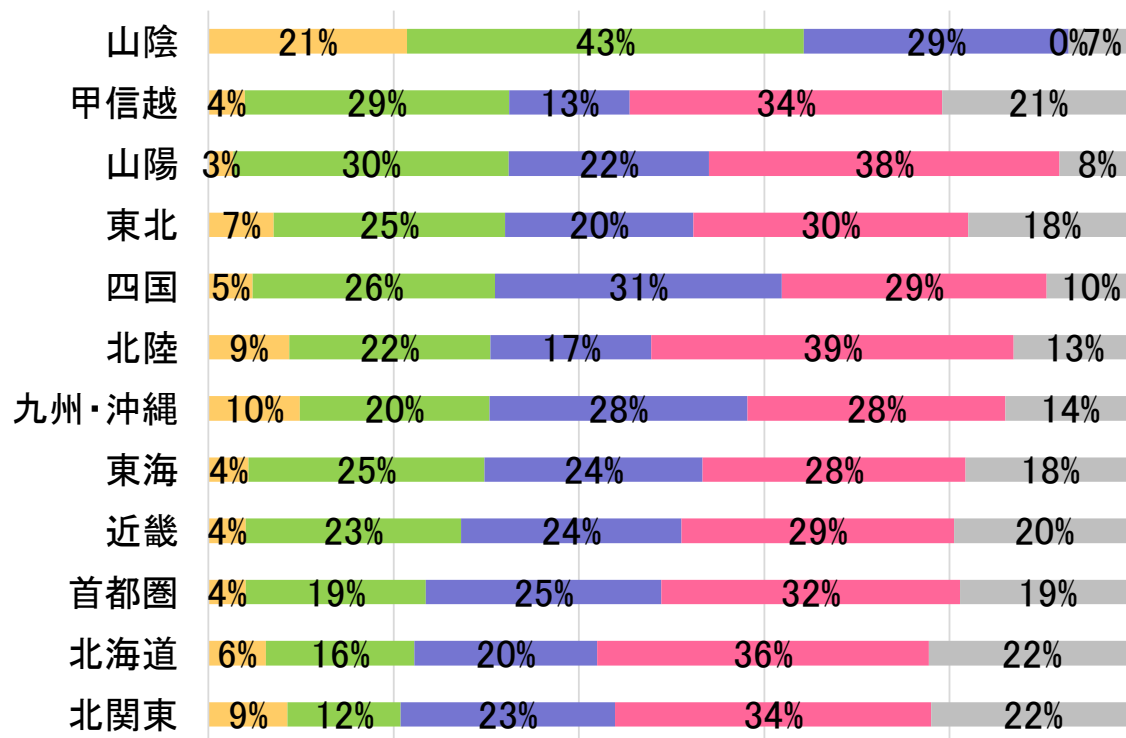
問:あなたは、自分の死後のことを考えて、生前に様々な物事を決めるにあたり、お寺や僧侶は頼りになる相談相手だと思いますか？

生前における寺院・僧侶への
死後事務相談 (N=2,000)



- とても思う
- 比較的思う
- あまり思わない
- 全く思わない
- どちらでもない

地域別



- とても思う
- 比較的思う
- あまり思わない
- 全く思わない
- どちらでもない

ポイント

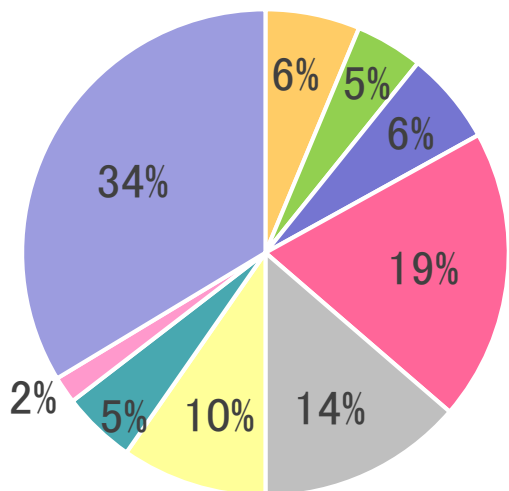
・相談に肯定的な人は全体の約3割弱。否定的な人は約5割に上り、全体としては適切な相談相手として認識されていない

傾聴へのお布施



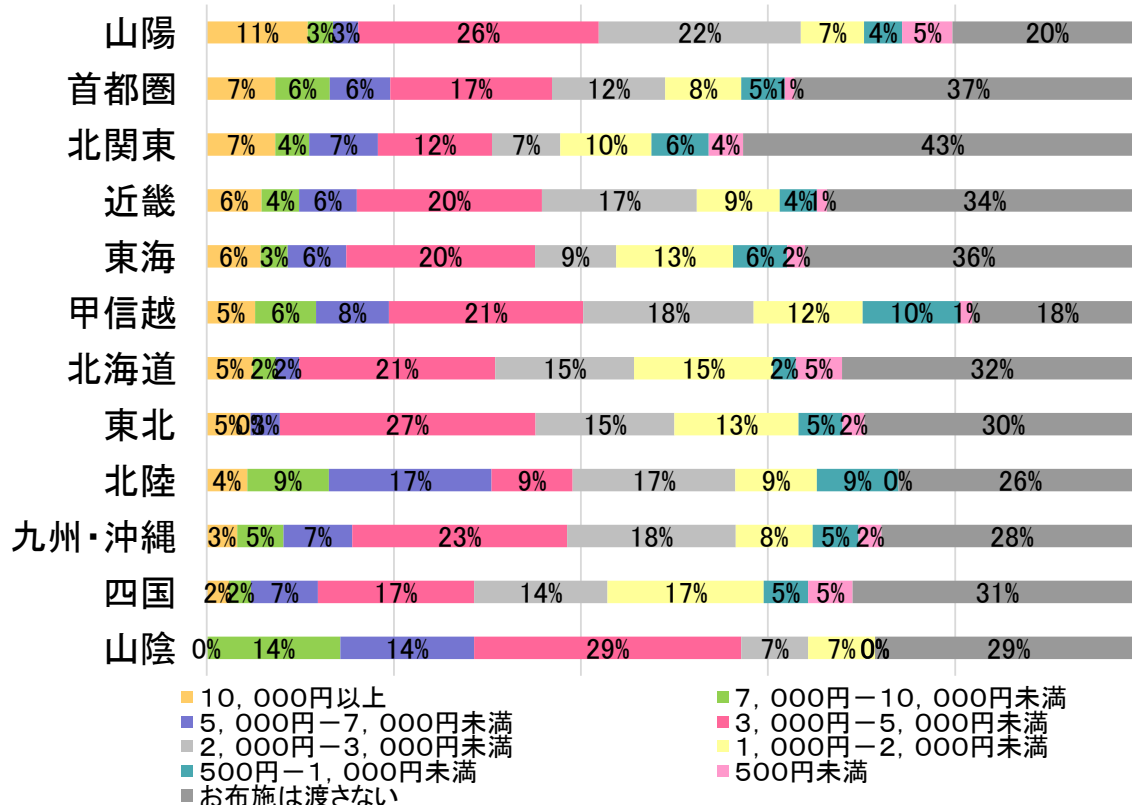
問:あなたは、お寺で住職やお坊さんに悩みや話を丁寧に聞いてもらった時、どの程度の金額をお布施としてお渡ししますか？

傾聴へのお布施 (N=2,000)



- 10,000円以上
- 7,000円-10,000円未満
- 5,000円-7,000円未満
- 3,000円-5,000円未満
- 2,000円-3,000円未満
- 1,000円-2,000円未満
- 500円-1,000円未満
- 500円未満
- お布施は渡さない

地域別



- 10,000円以上
- 7,000円-10,000円未満
- 5,000円-7,000円未満
- 3,000円-5,000円未満
- 2,000円-3,000円未満
- 1,000円-2,000円未満
- 500円-1,000円未満
- 500円未満
- お布施は渡さない

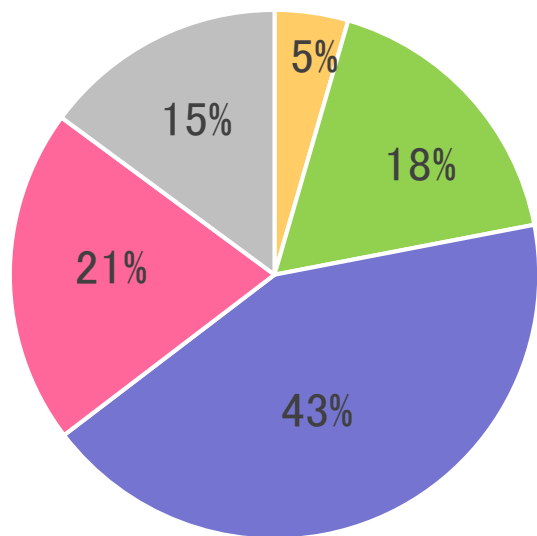
ポイント

- お布施は渡さない人も約3割いるが、約7割の人は何らかのお布施を渡す意向
- 女性のほうが男性よりも金額水準に厳しい傾向 (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)
- 子どもがいる人、仏事を依頼するお寺がある人のほうが若干だけお布施を渡す金額が高い (※同上)

寺院・僧侶への期待

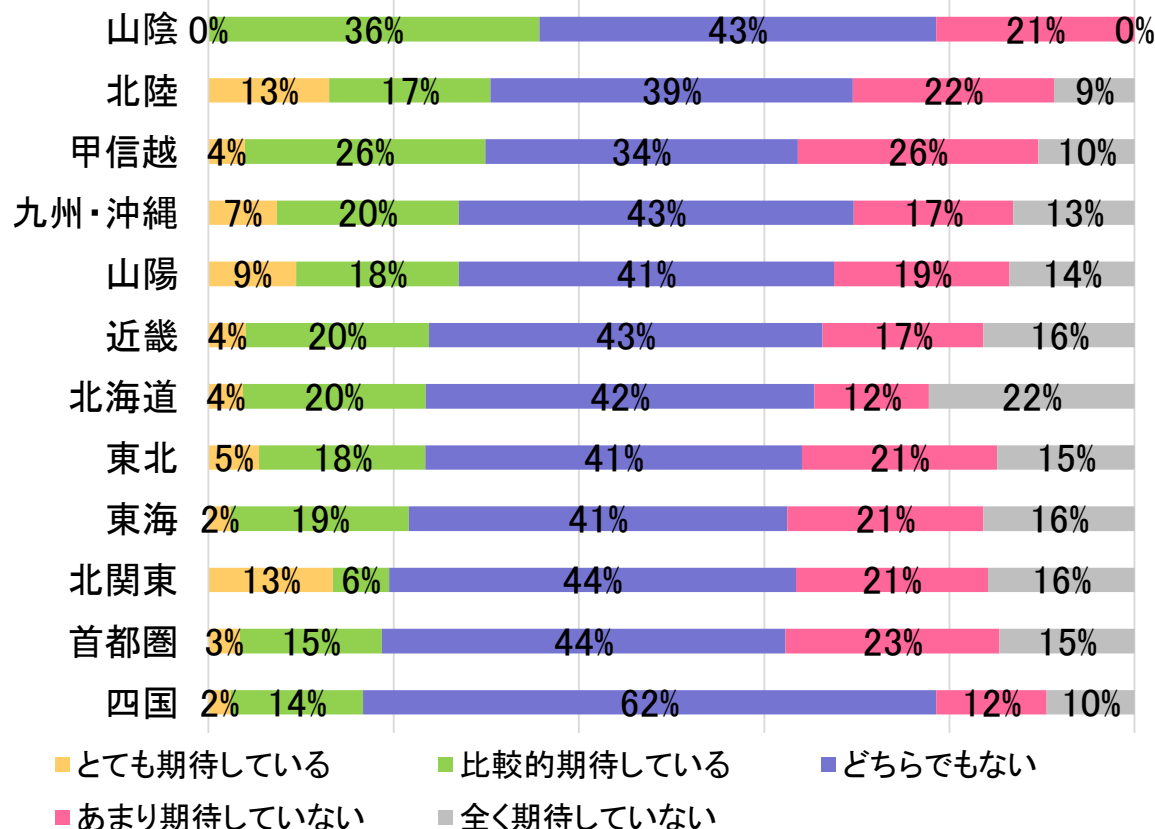
問:あなたは、これからの世の中において、お寺やお坊さんに期待していますか？

寺院・僧侶への期待 (N=2,000)



- とても期待している
- 比較的期待している
- どちらでもない
- あまり期待していない
- 全く期待していない

地域別



- とても期待している
- 比較的期待している
- どちらでもない
- あまり期待していない
- 全く期待していない

ポイント

- 期待している人は約2割。期待していない人も4割弱いるが、どちらでもないの浮遊層が約4割おり、浮遊層への働きかけが今後の鍵を握るのではないかと
- 若年層ほど肯定的評価が高い (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)
- 僧侶との接触回数が20回を超えると肯定的評価が高まる (※紙幅の関係上、グラフ未掲載)

寺院・僧侶への期待(定性コメント)



問:あなたは、お寺やお坊さんに特にどのような点を期待されていますか？

寺院・僧侶への期待

(※前設問の選択肢と突合し、全コメントの中身を分類)

期待項目(※全コメントから分類)		選択肢					合計
カテゴリー	詳細	とても期待している	比較的期待している	どちらでもない	あまり期待していない	全く期待していない	
生き方	仏教の教えの伝承・説法	26	50	51	15	5	147
供養	先祖供養・お経	9	33	70	21	3	136
受容	話し相手・相談相手	31	37	23	7	2	100
生き方	心の拠り所・精神的支柱	13	35	29	8	0	85
社会貢献	社会・地域貢献	5	24	28	12	1	70
寺院・僧侶批判	金儲け	0	1	13	23	32	69
生き方	生老病死に向き合う知恵の伝承	11	23	17	4	0	55
供養	墓守	4	7	23	6	1	41
生き方	倫理・道徳・礼節・清貧の体現	10	4	11	14	1	40
供養	仏事マナー	3	11	18	5	1	38
その他	伝統文化保護・伝承	0	5	12	7	4	28
寺院・僧侶批判	お布施の明確化	4	2	10	7	3	26
寺院・僧侶批判	単なる人間	0	1	6	9	8	24
受容	包容力・誠実な人柄	2	3	7	2	1	15
供養	永代供養	3	2	5	4	1	15
生き方	子どもの教育	3	2	6	1	0	12
その他	相続・死後事務	1	2	4	0	0	7
寺院・僧侶批判	わずらわしい	0	0	0	1	1	2
合計(除く「批判」カテゴリー)		121	238	304	106	20	

カテゴリー	合計
生き方	339
供養	230
受容	115
社会貢献	70
寺院・僧侶批判	121
その他	35

ポイント

- 期待の理由をコメント分析してみると、約半数を占めたのが「期待していない」「分からない」という無関心層
- 一方、期待は高くなくても、潜在的には期待している要素が散見。特に「供養」よりも「生き方」の伝達に関する期待が大きい
- 社会でよく批判される「坊主丸儲け」との批判は少ないが、全体的な期待値の低さに鑑みれば、理由としては少数にとどまった
- 全体で4割を占めた「どちらでもない」の浮遊層は、多面的に潜在的な期待理由を挙げており、仮に寺院・僧侶の実態が変化すれば、肯定的な評価に転換する可能性を秘めている

「寺院・僧侶に関する生活者の意識調査」所見

生活者の冷めた潜在的期待をたしかな期待に転化するため、信心を基盤とした僧侶の資質向上の必要性

- ・ 寺院・僧侶に対する生活者からの期待値は低い。一方、その背景を深堀りしていくと「仏教の智慧に根ざした、生き方についての教示」等の潜在的な期待はある。しかし、現状の寺院・僧侶の実態に鑑みて「現実的には期待をかけられない」という冷めた見方と捉えられる
- ・ 信心に基づく確かな仏教理解を根底に置き、現状において本業の軸である死者儀礼をしっかりと勤めながら、相談・話し相手として人々を受容し、仏教の智慧に基づく生き方を伝えるという、僧侶としての本分励行と技能向上に努めれば、肯定的な期待に転化する可能性はあるのではないか
- ・ 特に僧侶接触回数が20回以上になると期待値が増す傾向は、人柄を基盤とした僧侶の良さが「じわじわ伝わる」性質を示唆していると考えられる。一方、人間として、かつ宗教者として尊敬できる僧侶であることが会う回数を重ねる(何回会っても、また会いたい)前提条件であり、その前提が僧侶において満たされていないと、生活者と会う回数を重ねることは逆効果になりうる

【参考】

接触頻度が5-9回程度が悩み相談の意向やお布施の水準も良好な傾向を示した。これは以下の要因が作用していると考えられる

- ・ 接触頻度が高まりすぎると、距離感の近い日常的な関係になりすぎて(→尊敬できない一面も見えやすくなる)、宗教者としての「ありがたみ」が減る
- ・ 接触頻度が高いほど参詣者は様々な機会に喜捨(布施)しており、ここぞという場面で特別にお財布を開く気がそれほど起きにくい

家族形態の多様化に対応するため、若年時からの関係性構築に取り組む

- ・「子どもがいる」と「仏事を依頼するお寺がある」が連動する傾向。それは、「結婚して子どもを持つ」という伝統的な家族形態の人のほうが、法事等の伝統的な形を通じてお寺と付き合う機会が多いからと考えられる
- ・逆に言えば、未婚率と生涯無子率が3分の1を占める社会になる中、夫婦・子という伝統的な家族形態は社会の全てではなくなる。血縁に閉じた死者儀礼を中心とする伝統的アプローチのみでは今後のご縁づくりは困難
- ・体験系催しものには男女とも30代が最も関心を示し、若年層ほど寺院・僧侶への期待があることから、若年時にお寺と触れる前向きな記憶を育むことが、寺院に対する期待の維持・向上につながりうる。長期視点でご縁の基盤作りに取り組むことが重要と考えられる

死者儀礼を通じた新たなご縁開拓の余地はまだ存在

- ・仏式葬儀が9割の現状にもかかわらず、仏事を依頼するお寺がない人は約半数もいる。死者儀礼を通じたご縁開拓の余地はまだ存在すると考えられ、檀信徒を超えたご縁づくりに寺院が意識的かつ積極的に取り組む必要

生活者のお布施への厳しい目線に対し、生前・死後まで視野を広げた寺院経済モデルの構築が重要

- ・心温まる懇ろな葬儀執行でも、お布施は10万円前後という生活者の認識が示された。実際は生前の関係性や葬儀という場のリアリティが加わることで上積み余地はあるが、昨今のお布施にまつわる様々なメディア記事に鑑みても、寺院・僧侶と生活者の目線は乖離。葬儀のお布施を限界的に引き上げる方向性は、生活者との軋轢につながるため、葬儀布施のみに頼るのではなく、生前にも視野を広げた寺院経済モデルの構築が必要
- ・生前における死後事務決定は約7割が肯定的。当該領域でお寺への期待は低いですが、適切な形で関与することで生前からの関係構築につながり、めぐりめぐっての葬儀布施や遺産の寄付等の可能性も増すのではないかと

【本調査の照会先】

info@oteranomirai.or.jp

※免責事項

本資料に掲載されている情報の正確性については細心の注意を払っておりますが、一般社団法人お寺の未来(以下、当社)は利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

掲載されている情報のうち、過去または現在の事実以外のものについては、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断による見通しであり、様々な不確定要素を含んでおりますことをご承知おきください。

